

あらた同窓會

令和7年 あらた同窓会報

令和7年3月25日発行

鹿児島大学農学部
あらた同窓会

電話 099-285-8537

振替口座 02010-2-876



磯街道から見た桜島（令和7年元日）（富永 茂人氏撮影）

令和6年度会費納付のお願い

(会計年度：2024年10月1日から2025年9月30日)

鹿児島大学農学部、鹿児島農林専門学校および鹿児島高等農林学校の卒業生で組織される「鹿児島大学農学部あらた同窓会」(現在まで2万人を超える卒業生を輩出し、それぞれが国内外で活躍しています)の運営は会員各位の通常年会費をはじめ、新入生(学生会員)が納付する入会金と会費などを主な財源としています。

本会は、農学部と協力・連携しながら、「母校の活性化や在学生への支援を行う」、「地域支部会やクラス会などに極力出席する」等に加えて、会報の発行と頒布を通じて「農学部と同窓会の近況や地域支部会、クラス会の情報などを会員にお伝えする」とともに「会員相互の交流と親睦を図っていく」こと等の活動を行っております。

開学以来、母校が110年以上築き上げてきた「あらたの輝かしい伝統」を次世代に伝承して行くためにも、同窓会活動に対するご理解並びに積極的な参加と協力を賜りますようお願い申し上げますとともに年会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

年会費は2,000円です。同封の振込用紙(コンビニまたは郵便局)をご利用ください。

鹿児島大学農学部あらた同窓会報(毎年3月25日発行)への「エッセー」へのご寄稿のお願い

例年の「あらた同窓会報」には、「支部便り」や「クラス会・グループ便り」のご寄稿をいただいております。また、令和3年春季号から「エッセー」コーナーを新設して、「支部、クラス、グループ等」以外の同窓生個人の近況、思い出、同窓会活動に対して思うこと等について会員からご寄稿いただき、同窓生同士の連携を図る場を拡充することにいたしました。この新しい試みに対して、これまで多くのご寄稿をいただき好評でした。本号にも多くのご寄稿をいただき厚く御礼申し上げます。今後も、積極的なご寄稿をお願い申し上げます。

ご寄稿の原稿(ワードなどの電子ファイル)と写真(jpgなどの電子媒体)で、毎年1月末日までに事務局までにメールでお送りいただくか、「あらた同窓会HP」の【ご寄稿フォーム】(<https://aratadousokai.org/contribute/contribute-form/>、右QRコード)からご投稿ください。

※詳細については、下記事務局までメールまたは郵便でお問い合わせください。



事務局案内【事務局執務体制】

執務日：月、水、金曜日 10：00～16：00

TEL・FAX：099-285-8537

E-mail: aratakai@aratadousokai.org

ホームページ：https://aratadousokai.org/

住所：〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-24



目 次

1. 会長挨拶

ご挨拶あらた同窓会長 下川 悦郎 3

2. 学部長挨拶

卒業、修了おめでとうございます農学部長 寺岡 行雄 4

3. 次期学部長挨拶

ご挨拶次期農学部長 山本 雅史 5

4. 追悼文

國分 禎二先生との思い出村田 達郎 6

5. 定年退職者等挨拶

振り返れば田浦 悟 7

食品機能性の基礎研究と応用研究の「両輪」に乗って30年侯 徳興 8

森林環境教育と自然学校井倉 洋二 9

6. 特別寄稿

農学部ロゴマークの制定について坂井 教郎 10

鹿児島大学農学部基金へのご寄附のお願い寺岡 行雄 10

令和5年度農学部卒業祝賀会および令和6年度新入生茶話会開催富永 茂人 11

「あらた同窓会令和6年度総会および懇親会」を盛大に開催しました富永 茂人 12

7. あらた同窓会功労者表彰

「あらた同窓会功労者」の表彰式および功労者のご寄稿事務局 13

わっぜ?? ジャっど??藤岡 悦治 14

「兵庫あらた会報」の回顧柳田 興平 14

佐賀あらた会への思い古賀 俊光 15

あらた同窓会功労者表彰を受賞して下川 悦郎 15

功労者表彰を受けて新納 時英 16

8. 支部・職域・クラス会・グループ便り

「あらた関東化友会」近況報告片山 賢治 16

令和6年度 関西あらた会設立総会報告秋吉 博之 17

【関西あらた会設立総会記念講演要旨】

JICAボランティアを経験して -近年のエクアドル事情-西川 正雄 18

岡山あらた会 支部便り寺尾 国一 20

広島あらた同窓会 支部便り辻野 聡 20

令和6年度 福岡県庁あらた会を開催しました堤 慎太郎 21

5年ぶりに佐賀あらた同窓会総会及び懇親会を開催しました森 敬亮 22

熊本あらた会 支部だより北村 勇 22

鹿児島支部の活動状況の今田中 重行 23

鹿児島市役所あらた会総会、懇親会報告脇 建二 24

「おせんしの育珍会」を開催しました田浦 悟 24

おじゃったもんせ 「桜園の会」へ栗之丸 隆太郎 25

9. 会員からの寄稿（エッセーなど）

社会人1年目の生活	遠藤 大知	26
人生いろいろ、種子島生活の所感（種子島生活 その3）.....	永井 定明	26
阿蘇への大人1日修学旅行	瀧川（犬童） 憲洋	27
テッポウユリの育種に携わって	今給黎 征郎	28
西バルカン諸国のこと	福山 誠	29

10. 学生便り**「ビバキャンパスライフ、教育実習体験記および留学体験記」**

繋がりで成長できた4年間、これからも	本田 りくと	30
ミートジャッジング競技会を通して経験したこと	石橋 果歩	30
3年間で振り返って	辻 和真	31
「教育実習体験記」教育実習を終えて	小八ヶ代 結生	31
興味のため、人生をやり直し	張 顧良	32
「教育実習体験記」概念を形成する所	中野 伊吹	32
鹿大での4年間	坂元 小梅	33
大学生活での経験	永田 爽華	33
「留学体験記」 タイへの留学体験記	三宮 美結	34

「卒業・修了にあたって」

<i>Carpe diem</i>	長田 聖哉	34
大学生活を振り返って	津曲 蓮	35
大学生活を振り返って	北川 翔麻	35
大学生活を振り返って	坂元 裕佳	36
学生生活を振り返って	大西 布綺	36
ご縁に恵まれて	福山 亜愛	37
成長できた4年	畑中 日向	37

11. 恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報	事務局	38
12. 本部便り	事務局	39
13. 役員名簿	事務局	44
14. 会計報告	事務局	44
15. 鹿児島大学農学部あらた同窓会会則	事務局	47
16. 編集後記	富永 茂人	

会長挨拶**ご挨拶**

鹿児島大学農学部あらた同窓会

会長 下川 悦郎

(林S 44 卒)

あらた同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会の運営にご支援ご協力いただいていることについて厚く御礼申し上げます。

このたび令和6年度総会の議を経て会長に就任いたしました下川悦郎と申します。昭和44年度林学科の卒業です。会長の重責を担う器ではないと自覚しておりますが、お引き受けした以上その職責を果たしていく所存です。前任の藤田晋輔会長同様、同窓会運営にたいする会員各位のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

令和5年5月新型コロナ禍が解除されたことで、昨年度（令和5年度）からあらた同窓会は新型コロナ禍前の活動を少しずつ取り戻しつつあります。学生向け講演会は準備不足で開催に至りませんでした。令和5年度卒業（学部学生）・修了（大学院修士課程）祝賀会（3月25日 農学部との共催）や令和6年度新入生茶話会（4月3日 主催）、総会終了後の懇親会、各支部との交流会など、恒例の行事が農学部との連携で開催されました。コロナ禍でも発行されていた会報は引き続き発行されています。それから初めての開催となりましたが、11月23日令和6年度同窓会総会に先立ってホームカミングデーと称して在校学生の綱引き大会などの行事が行われました（農学部主催、同窓会共催）。この催しは今後も毎年開催されるとのことですので、あらた同窓会総会・懇親会に出席かたがた母校を訪問していただければと思います。

同窓会活動については、改善しなければならない課題があります。二つ挙げておきます。一つは会費の納入者数が低い状態で推移していることです。令和5年度の一般正会員の納入者数は828人、会員数は推定1万5千人を数えますので、納入率は5.5パーセントです。結果、同窓会の財政基盤は脆弱で、会費収入だけでは予算が組めない状況が続いています。経費節減はもとよりですが、会費免除者や旧賛助会員の方々からのご寄付（賛助金）をいただき、また新型コロナ禍での同窓会活動の中止や縮小に伴って生じた繰越金を充てることで辛うじて単年度の収支バランスが取れているのです。

会計年度末、本部では同窓会総会が、各支部では同窓会支部総会が開催されています。年に一度会員が集う恒例の行事ですが、本部、支部とも出席者数が減少していると感じています。世代を超えて会員が集い交流と親睦を図るといふ同窓会の原点ともいえる活動が弱くなっているのではないかと、これが二つ目の課題です。こうした課題を少しでも改善するために努力したいと思っています。

母校の農学部では、農学分野における教育研究機能の強化と時代をリードする人材の育成を図るために、「鹿児島大学農学部基金」が設立され、寄付を募っています。あらた同窓会会則第2条にあるように、農学部の発展に寄与することも同窓会の目的です。会員の皆様におかれましては基金の趣旨をご理解いただきご支援をお願いする次第です。

簡単ですが会長就任のご挨拶とさせていただきます。

学部長挨拶

卒業、修了おめでとうございます



農学部長 寺岡 行雄

令和6年度の鹿児島大学農学部卒業生並びに農林水産学研究科の修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんにとって、鹿児島大学農学部での4年間の充実した時間であったことを願っています。教職員を代表して無事に卒業され、新しい門出を迎えられることを心から祝福したいと思います。皆さんは、これからそれぞれ自ら決めた新しい道を歩んでゆくことになります。仕事を始め、新しい場所での生活になり、戸惑うことも多いでしょう。人生はすべてが順調に行くことが稀で、つまづくこともあるでしょうが、失敗を恐れず挑戦してゆく姿勢が大切だと思います。皆さんを見守ってくれている人が必ずいますから、一人で悩まず、相談することの勇気を持ってください。人生に与えられた時間には限りがあります。この限られた時間を上手に使う自分の人生を描いていってください。私たち大学教員は、皆さんが元気に活躍してゆくことを楽しみにしています。気軽に大学へ帰ってきて、話を聞かせてください。

さて、鹿児島大学農学部の令和6年度を振り返ってみますと、4月に組織替えを行い、これまでの3学科を（新）農学科の一学科へと再編しました。令和6年度の新入生は一括で入学し、4クラスに分かれてこの1年間に、自らの目指す進路のためのプログラムと履修科目の選択を行ってゆく農学キャリア教育を実施してきました。1年生全員がフィールド基礎実習を履修しました。農場では畑を耕して畝を作り、演習林ではカレーを作りキャンプをしました。食品工場では味噌を作り、農業関係企業では市場での流通や農事法人の見学などの体験をしました。農学部で学ぶことを理解してくれたのではないのでしょうか。彼らは令和7年4月から4つの専門的なプログラムに分かれて学修をしてゆくことになります。新しいカリキュラムでの教育をしっかりと進めてゆくことが我々の責務です。

また、昭和24年（1949年）の農学部設立から75周年となったことから、11月23日の農学部開学記念日に、農学部ロゴマークの制定（3年生がデザイン）、綱引き大会（焼酎学の研究室が優勝）、農学部フォトコンテスト（卒業生の作品が最優秀賞）、ホームカミングデー（多数の卒業生が参加）を実施いたしました。様々な機会を通じて、農学部で学んだ学生の皆さんが農学部への愛着を持ってもらえればと願っております。

農学部の文化財としていくつかの扁額があります。多くは百周年記念展示室にあります。農学部長室に次の扁額（大正12年秋）が飾られています。

制定した
農学部ロゴマーク

これは中国戦国時代末の思想家・儒学者である荀子の言葉で、「独立為経共存為利」と書かれています。現代語訳では「独立した考え方を持ちながら、他者と共存することが大切

である」という意味です。「卒業・修了し新しい世界に飛び立ってゆく皆さんは、しっかりと自分の考えや生き方への信念を持ってゆかねばならないけれども、人は社会的存在であり一人では生きて行けないので、他者を尊重し、周囲の人との良好な人間関係を築くことも大切である」と論じている言葉が記されていると解釈しています。

卒業生・修了生の皆さんの活躍を期待しています。また、新しい農学部の教育が素晴らしい成果として結実することを心から願っております。

次期学部長挨拶**ご挨拶**次期農学部長 **山本 雅史**

このたび令和7年4月から農学部長に就任することになりました山本雅史です。よろしくお願いたします。平成10年に助教授として当時の生物生産学科に着任して以来、果樹園芸、特にカンキツ類の研究を進めて参りました。現地調査その他では、多数の農学部卒業生の皆様に様々な面で助けていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

新学部入学生が2年生となる令和7年度から農学部における改組後の教育が本格化します。農林食品産業は地域性の強い実学ですので、地域社会との密接な連携が必要です。学生の研修やインターンシップの活性化を図るとともに、教員の積極的な関与による地域課題の解決も図り、大学・地域社会両者の発展に貢献するようにしていきます。地域社会との実りある連携のためには、学生一人一人が既存の学問分野を理解し、その活用を図ることができる能力に達していることが必要です。そのために、講義・演習・実験・実習などについても基礎から最先端までを学べる環境の構築を図ります。令和6年度からの農学部1学科制の特長（学科・コースの縦割りと細分化による専門偏重教育から農学総合力と専門性人材育成へ）を最大限に活用することによって、総合的に農業・農学を理解するとともに専門性を備え、予測困難な新たな時代を担う人材の育成が可能となります。

研究面では、特に現在世界が求めている持続的な社会の構築を目指し、食料生産力向上、食と安全、生物多様性、島嶼や環境問題に取り組むことが重要だと考えます。気候変動（地球温暖化）に起因する問題解決に関する研究も重要です。鹿児島は九州の最南端に位置し、日本本土で最も温暖化が顕在化する場所であることから、その研究基地としての存在価値は極めて高いです。さらに他大学の農学部にない特長を発揮するため、奄美群島および附属農場指宿植物試験場における教育研究の推進が極めて重要であると考えます。奄美群島は固有の生態系が認められる地球規模でも貴重な地域です。農学部においては、本地域の大学としての積極的な活動が必要です。また、指宿植物試験場が熱帯性作物研究だけでなく脱炭素農業研究の拠点となるよう努力します。指宿植物試験場は自然エネルギーである温泉熱を利用した施設栽培を実施してきました。令和6年度に太陽光発電および人工気象室が導入され、令和7年度から本格的に運用されます。本施設における教育研究は化石燃料を使用しない持続的な社会の構築に資するところが大きいものです。今後は農業分野や温泉熱利用だけにとどまらず、他分野と協働して多様な自然エネルギーを利用したカーボンニュートラル社会実現のための教育研究の場としての活用も期待できます。既に地域とも連携について検討を始めています。奄美群島および指宿植物試験場で得られた成果は、鹿児島大学の存在を国内および海外にもアピールするものになります。

以上、今後の農学部の発展には、社会との緊密な連携が必要です。そのためには同窓会の皆様のご協力が不可欠です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

追悼文

國分 禎二先生との思い出

東海大学名誉教授 村田 達郎
(農S 51 卒)



米寿を祝う会での國分先生

國分禎二先生は、令和6年11月21日に故郷の対馬において享年93歳で永眠されました。私は、50年程前に学部・大学院でご指導を受け、その後東海大学に勤務した後も長年様々ご助言をいただいた卒業生の一人として、國分先生との思い出を書かせていただきます。國分先生は、長崎県の対馬ご出身で、昭和30年に鹿児島大学農学部農学科育種学研究室に採用され、昭和34年に助手、昭和47年に助教授、昭和57年に教授に昇任され、長年育種学研究室を支えていただきました。

先生は、「サツマイモ品種の塊根の組織構造とでん粉蓄積能力との関係に関する育種学的研究」をテーマに長年研究を行っておられました。先生が本研究で提示されたサツマイモの塊根形成過程の模式図は、農学研究者や農業に携わる人には必需品である「農学大事典」にも引用されており、現在でもサツマイモの塊根形成に関する論文や著作には数多く引用文献として取りあげられています。

その後先生は、サツマイモの交配育種を行う際に障害となっている同一交配不和合群内の体細胞雑種作出などを旨として組織培養分野の研究も推進されておられました。本分野においては、先生は中国からの2名の留学生を指導され、両氏とも鹿児島大学大学院連合農学研究科で博士号を取得されました。その後帰国された劉慶昌博士は、日本、中国、韓国の3カ国のサツマイモの研究者によって2年ごとに開催される「日中韓サツマイモシンポジウム」の中国側の責任者として活躍され、平成7年北京で開催されたシンポジウムでは、國分先生と一緒に私も参加いたしました。



國分先生の米寿を祝う会 (平成30年11月)

私が育種学研究室に入った時代は、宮司佑三教授と当時助教授であった國分先生、それに技官の方が1人おられる体制でした。宮司先生は学生運動が激しかった時代の学生部長であり、その後学部長を歴任されたために、実質的には國分先生が研究室の実務を担っておられました。研究室では、植え付けや収穫など事あるごとにコンパが開催されていましたが、途中宮司先生の「パリの屋根の下」という自称シャンソンの独唱が定番でした。豪放磊落の宮司先生と、通常は物静かな國分先生も酒が入るとテンションが上がり、お二人の掛け合いを私達学生はそっと聞き入っていた記憶がありますが、今頃は天国で懐かしく杯を交わしておられることと思います。こんな研究室の雰囲気卒業後も味わうことができるように、宮司先生が名付け親である「育珍会」(育種学研究室同窓会)が今でも受け継がれています。私が國分先生に最後にお会いできたのは、平成30年11月に中国からの留学生を含め65名の「育珍会」のメンバーが主催した國分先生の米寿を祝う会でした。

対馬のご自宅前
(平成16年3月・國分先生ご夫妻と筆者)

先生は私が学生時代に「対馬に帰郷したが、海に釣竿を垂らして魚釣りをしている人を見ていたら羨ましく感じたよ」とおっしゃったことがありました。退職後、奥様と一緒に対馬に帰って晴耕雨読の生活を楽しまれているとお便りを頂いた時に、学生時代にお聞きした言葉を思い出しておりました。20年程前、私の研究材料である自生の日本シバを対馬に採集に行った時に、大きな新築のご自宅に学生共々泊めていただき、対馬のいろいろな自然環境についてお話しを伺ったのが懐かしい限りです。國分禎二先生の長年にわたるご指導、ご鞭撻に対して深く感謝申し上げるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

定年退職者等挨拶**振り返れば**

鹿児島大学先端科学研究推進センター

遺伝子実験部門 **田浦 悟**

(農S 59 卒)

2001年ベトナムでの
イネ白葉枯病菌接種試験の指導

私は1980年に農学部農学科に入学しました。國分禎二教授、佐藤宗治助教授が率いる植物育種学研究室にはいり、卒論では粟（アワ）の「もち」と「うるち」のでんぷん粒が混ざったキメラ（まだら）系統を扱いました。自分は「今卒業しても何も知らんなー」を言い訳に進学を決めました。研究室で佐藤先生が「作物と作物を侵す植物の病気の関係はずーっと続き、いつまでも飯の種になるよ（食いばぐれない）」という言葉が頭に残っていました。それが元で病害抵抗性に興味が湧き、進学先の九州大学農学部でイネ白葉枯病と出会いました。研究の内容は化学薬品による突然変異によってこのイネ白葉枯病に強いイネを作ることでした。毎日せっせと農場通いを続けていました。その後、フィリピンの国際イネ研究所（IRRI）で2年半JICAプロジェクトのポストマスターナルフェローとして研究を進めるチャンスを得ました。

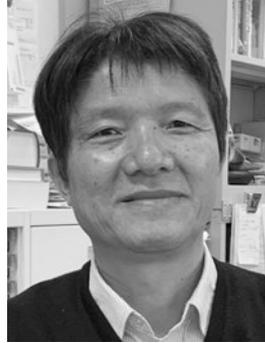
1989年5月1日に古巣の植物育種学研究室の助手に就きました。農学科として最後の人事だったそうです。1日に辞令をいただきに行ったものの、「君の辞令はまだ作っとらん」と植木健至学部長（当時）に言われたのを記憶しています。のんびりした時代だったのでしょう。早速イネを植えようとリアカーを引いてポット作りをしていました。IRRIでは研究のための多くの手伝いを得ていたので内心は「何でオレがポットを作らんといかんの！」とブツブツ言ってやっていました。その横をバイクに乗ったおじさんが止まって「兄ちゃん、どっから来た」と金網越しに声をかけてきました。私はすぐさま「フィリピンから」と答えました。おじさんは感心したように「日本語、じょうずねー」と。私の日焼け具合と東南アジア系の顔つきから留学生に見えたようです。それから、農学部では8年間お世話になりました。1996年5月に林 満先生（のちの遺伝子実験施設長）に呼び出され、「遺伝子実験施設に行け」と言われました。設置が決まっていた当施設の建設に河邊弘太郎先生（現共通教育センター）と携わることになりました。設計では部屋割りを全面的に見直しました。蛍光薬品の開発によりラジオアイソトープ（RI）の使用量が激減していたことから、RIを取り扱うことのできる実験室を最小限にしました。そこにカリキュラムで使用できる学生実験室を設けました。施設の発足当初は施設建設の設計、3年間に渡る特別設備費の請求で毎日函面を引き、ポンチ絵を書いていたのを思い出します。

2001年から2004年にベトナムハノイ農業大学大学強化計画に参加することができました（写真は菌の接種を指導しているところです）。ここで初めてイネ白葉枯病の感染水田を見ました。感激しました。1ヶ月の滞在を4年間行い、北部ベトナムの感染した水田で病斑葉を採取し、菌の分離と接種試験を続けました。これにより、どうして爆発的な発生（ブレイクダウン）が起こったかを明らかにしました。植物を導入する際は防疫上の観点に立ち判断することが重要だと改めて感じました。

最後に、あらた同窓会報についての思い出を申します。この会報の発行は林先生（当時同窓会副会長）の指導で進められました。掲載する記事の内容を南雄二先生と私に任され、とりあえず研究室の状況を便りとして載せることになりました。ついでに、表紙のタイトルデザインも任されました。その時ふと、大学に入学するため父の車で生活に必要な布団などを積んで熊本から引っ越しした時のことを思い出しました。たまたま、つけていた車のラジオで鹿児島大学農学部の前身の高等農林学校の時代に揚水用ポンプの風車があった話を聞きました。風車はシンボリック的存在だったと言っていたことが印象に残っています。そこで、風車の載った写真を探してもらい私の提案が採用されました。表紙をよく見て、風車を探してください。

農学部の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

食品機能性の基礎研究と応用研究の「両輪」に乗って30年



食品生命科学プログラム 侯 徳興
(院畜S 62修)

私は、中国出身で来日前に中国湖南農業大学の助手として勤めていました。1985年10月に日本文科省国費研究留学生として鹿児島大学農学部家畜育種教室（橋口勉教授、前田芳實助教授、岡本新助手（当時））に配属されました。その後、本学大学院に進学し、1988年3月に修士修了、1991年3月に本学連合農学研究科1期生として博士課程を修了し、初の農学博士になりました。「花の博士課程1期生」でテレビや新聞等に大きく報道されていたことを今でも覚えています。その後、1991年4月～1997年10月まで理化学研究所つくばライフサイエンスセンターに博士研究員等として遺伝子構造解析と発現制御の研究に7年間携わりました。1997年11月に本学農学部生物資源化学科動物細胞工学研究室（藤井信教授）の助教授として着任し、食品の機能を研究することになりました。2007年4月に准教授、2011年10月に教授となり、農学部で過ごした時間は学生として5年半、教員として27年5ヵ月、計33年近くになります。

本学部に着任する前、私は遺伝子に関するさまざまな研究を行ってきました。生体内には本来、遺伝子制御の仕組みがあり、その仕組みに影響を与えるのは、外部の因子だと考えられていました。食品に含まれている栄養や非栄養成分が、食事のたび我々の体の遺伝子発現に何かしらの影響を与える可能性は想像できましたが、そのメカニズムには不明点が多いです。そこで、私は遺伝子・ゲノム科学の知見と技術を利用し、栄養・食品成分の機能性を研究することを本学での教育・研究テーマにし、いわゆる「ニュートリゲノミクス」と呼ばれる新しい分野を立ち上げました。本分野に多くの学生が興味を持ってくれ、研究室の大学院生が年々増え、常に20名前後の学生が狭い研究室で良く頑張ってくれる研究室になっていました。食品機能の研究内容は、がん予防機能・抗酸化機能から免疫調整機能・脂肪肝予防機能・腸内細菌叢調整機能など多方面に展開していきました。研究材料も純粋な食品成分から様々な食材や加工食品まで拡大し、研究方式も試験管内での分析測定や培養細胞を用いた実験から、実験動物や外部機関と協力したヒト介入試験にまで広げました。研究手法も特定遺伝子・タンパク質マーカーの検出から、DNAマイクロアレイやRNA-seq等の網羅的な遺伝子発現解析、さらに、腸内細菌叢のメタゲノム解析まで展開してきました。食品機能性研究において常に心掛けてきたことは、基礎研究と応用研究を食品機能研究の「両輪」として進めることです。研究を開始した当初、食品成分機能性の基礎研究を行い、その科学データを主に学術論文として発表してきました。データの蓄積に伴い、基礎研究の成果をもとに機能性食材や食品の開発を目指した応用研究も始めました。さらに、応用研究で見つけた問題点を再び基礎研究のテーマにし、それを解明して学術論文にするというサイクルを継続してきました。このように食品の基礎研究と応用研究の「両輪」は私の30年近い大学教員の教育・研究生活を支える基盤となり、多くの企業や地方自治体との共同研究につながりました。そして、その研究成果を社会や地域に還元することができたことを幸せに思っています。

26歳時に学生として本学部で留学し、65歳で教員として本学部で定年退職を迎えることになりました。長い間、大変お世話になりました、そして、ありがとうございます。農学部およびあらた同窓会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

森林環境教育と自然学校



附属演習林 井倉 洋二

私は1998年4月に鹿児島大学に赴任しましたので、まもなく27年になります。出身は福岡ですが、生まれ育ちは転々としたので、生涯の中でも鹿児島人歴が最も長くなりました。来た頃はその田舎ぶりがあまり好きになれなかったのですが、今では鹿児島愛の塊で、この先もずっと鹿児島に住み続ける予定です。

演習林の専任教員という特殊な立ち位置で、前任の九州大学でも演習林でしたので、複数の大学演習林を渡り歩いた数少ない存在です。元々の専門分野は別だったのですが、鹿大へ来てから大きく変貌しました。看板のある研究所所属でなかったからできたことだと思いますが、「森林環境教育」という専門分野を掲げて教育研究に取り組んできました。

きっかけは1999年、文部省（当時）が「全国子どもプラン」の一つとして、大学施設に子どもを対象とした体験プログラムの実施を呼びかけたことから始まりました。演習林では職員たちと知恵を出し合って自然体験や林業体験等のプログラムを実施、その手ごたえから、その後の多様な取組へと発展していきました。キャンプ、沢登り、ネイチャーゲーム、イニシアティブゲーム、焚き火、ナイトハイク、等々。子ども向けの遊びのプログラムや小中学校の授業の受け入れ、さらに大学の実習として、大人向けプログラムとして、さまざまな体験活動を提供してきました。

2006年には演習林の地元である垂水市大野地区の学校が閉校になったのを機に、垂水市に働きかけて「大野ESD自然学校」が設立されました。同時に学生ボランティアサークル「たかくま森人クラブ」ができ、自然学校の活動を支えてくれました。学生たちは自然学校の活動とともに大野地区住民との交流を深め、地区の奉仕活動、お祭り等の行事に参加し、農作業のお手伝いもするようになりました。地区の伝統芸能である「棒踊り」も踊り手として参加し、伝統文化継承の担い手としても活躍しています。

2013年には、たかくま森人クラブの卒業生が中心になり、NPO法人を立ち上げました。これまでの活動を事業化し、新たなソーシャルビジネスを生み出し、農山村に若者の生業を作り出すことを目指しての活動でした。

このように演習林を拠点に森林環境教育の活動を20数年間続けてきましたが、これらは大学の教育研究と社会貢献を同時に実現するもので、全国の演習林の中でも最先端のユニークな取組であったと自負しています。自然の中での体験からの学びは、自然への理解を深めることだけでなく、「自然への感性を育む」「自然と人をつなぐ」「人と人をつなぐ」などの効果があります。これらをより効果的なプログラムとして実施するためには「ふりかえり」「わかちあう」ことが重要で、そのような場を作るために「人に伝える・インタープリテーション」や「ファシリテーション」のスキルを学ぶことも必要になります。さらに自然とともにある「暮らし・ワザ・文化・歴史」等を体験し学ぶことで、地域に愛着を持ち、「持続可能な地域づくり」に目覚める人も出てきます。そしてそのための生業づくりの必要性から「ソーシャルビジネス・コミュニティービジネス」にチャレンジする人も出てきます。

自然と体験からの学びをベースにしたこのような一連の活動やそれを行う団体を「自然学校」と呼びます。私のこれまでの活動をふりかえると、まさに自然学校の実践そのものだったように思います。その中で学生たちに伝えてきたことはたくさんありますが、最終的には「主体的に生きる」とことと「自然体で生きる」とことの2つに集約できるようです。私自身も、今春大学を卒業して、新たな自然学校づくりにチャレンジしていきたいと考えています。

27年間ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いします。

特別寄稿

農学部ロゴマークの制定について

農学部広報委員長 坂井 教郎

農学部では、創立75周年を記念し、ロゴマークを制定しました。

令和6年6～8月にかけて、鹿児島大学や農学部のHP、あらた同窓会等を通じて公募を行い、学内外から20件のユニークな作品の応募がありました（あらた同窓会会員の皆様からもご応募いただきました。ありがとうございました）。

応募作をロゴマーク選定委員会において厳正に審査し、鹿児島高等農林学校の開学記念日である同年11月23日に発表しました。

今回制定したロゴマークは、噴煙をあげる桜島をモチーフに、農学部らしい緑色にピンク色をアクセントに使った絵柄です。デザインしたのは、農学部食料生命科学科3年生の南新美羽さん。令和6年に改組した新しい農学部の4つのプログラムが大きく拡がっていく様子を桜島の噴煙に表現したそうです。

ロゴマークは、農学部やあらた同窓会に関連する印刷物やHP等に自由に使用することができます。あらた同窓会会員の皆様におかれましては、このロゴマークとともに農学部を広くPRしていただきますようお願い申し上げます。



農学部ロゴマーク

鹿児島大学農学部基金 募金趣意書

鹿児島大学農学部基金へのご寄附のお願い

～持続可能な農林食産業の発展に貢献する人材養成のために～

農学部長 寺岡 行雄

鹿児島大学農学部及び大学院農林水産学研究所（農学系）では、日本で有数の食料基地に位置し、温帯から亜熱帯へ南北600kmにも及ぶ多様な自然環境を背景にフィールド教育を重視し、豊かな人間性と現場での実践力や応用力、広い視野と国際性を持った、新しい時代に向けた創造性豊かな人材の養成に努めるとともに、地方創生に向けた農林業を志す人材の養成に努めております。

このたび、農学分野の教育研究の更なる機能強化を図り、農学分野の時代をリードする人材の育成を図るために「鹿児島大学農学部基金」を設立いたしました。

つきましては、あらた同窓会会員の皆様の格別のご支援を賜りたいと存じますので、何卒、本基金の趣旨にご賛同いただき、ご寄附を賜りますようお願い申し上げます。

基金の用途

対象事業	内 容
農学部等の教育研究の充実に 関する事業	教育研究活動の推進・充実、特に学生実習に必要な経費や学生厚生 の充実に資する事業の支援を行う。
農学部等の国際交流の促進に 関する事業	大学院生の国際学会（海外開催）での発表や若手教員の在外研究等 の海外派遣事業の支援を行う。
農学部等の施設及び環境の整備 充実に関する事業	教育活動環境の整備・充実に資する事業の支援を行う。
その他農学部基金の目的達成 に必要な事業	その他、農学分野の教育研究の振興に資する事業の支援を行う。

※上記のほか、鹿大「進取の精神」支援基金の管理運営を円滑に行うことを目的として、本基金に対する寄附金の一部を鹿大基金の全学共通経費として使用させていただきます。

【寄附金による税制上の優遇措置】

○ご寄附者様が個人の場合

所得税の控除：

寄附金額（総所得額の40%が限度）から2千円を除いた額を所得金額から控除することができます。

住民税の軽減：

お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、寄附金額（総所得額の30%が限度）から2千円を除いた額に対し、都道府県は4%、市区町村は6%を乗じた額が、翌年の住民税から控除されます。

○ご寄附者様が法人の場合

法人税法により、寄附金の全額を損金算入することができます。

税制上の優遇措置について詳しく見る

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1352/zeisei.html>**【寄附金の受入れの制限】**

次に該当する寄附金は、受け入れることができません。

- ・寄附金により取得した資産を寄附者に無償で譲与すること。
- ・寄附金による研究の結果、特許権又はこれに類する権利が生じた場合、これを寄附者に無償で使用させ、又は譲与すること。
- ・寄附金の使用について、寄附者による財務監査が義務づけられているもの。
- ・寄附金を受入れた後、寄附者が自己の意思により寄附金の全額又は一部を取り消すことができるもの。

【ご寄附をいただいた方の顕彰】

鹿児島大学農学部基金へご寄附をいただいた皆様には、領収書とともに鹿児島大学長よりお礼状をお送りいたします。また、ご芳名および寄附金額を農学部ホームページに掲載いたします。（ご芳名、寄附金額の掲載にそれぞれに同意された方に限ります。）

【ご寄附の手続き】

鹿児島大学農学部基金へのご寄附は、「鹿大『進取の精神』支援基金」の制度を通じてお手続きいただけます。専用ウェブページからお申し込みいただけます。

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1352/post-19.html>

専用ページからはクレジットカード／コンビニエンスストア／インターネットバンキング（Pay-easy）等の支払い方法を選択できます。

**【お問い合わせ先】**

鹿児島大学 農学部共同獣医学部等事務部総務課総務係

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21番24号 電話：099-285-8515

令和5年度農学部卒業祝賀会および 令和6年度新入生茶話会を盛大に開催しました

常任副会長 富永 茂人（園S48卒）

1. 令和5年度卒業・修了祝賀会

令和6年3月25日、令和5年度（第72回）鹿児島大学卒業式・修了式が鹿児島県総合体育センター体育館において挙行されました。

同日午後から農学部とあらた同窓会の共催により「農学部・農林水産学研究科（農学系）卒業・修了祝賀会」を農・獣医共通棟101号教室において盛大に開催



しました(右写真)。「新型コロナウイルス」の影響で5年ぶりの開催となりました。本年度の農学部卒業生は192名、院修了生は62名でした。祝賀会の写真は「あらた同窓会HP (<https://aratadousokai.org/>)」のギャラリーページ (<https://aratadousokai.org/gallery/>) からご覧ください。



令和5年度卒業・修了祝賀会 (3/25)

2. 「あらた同窓会」主催の新入生茶話会

令和6年4月3日(水)に「令和6年度農学部新入生オリエンテーション」が開催されました。今年の新入生は(農学科167人、国際食料資源学特別コース14人)、3年次編入5人でした。オリエンテーションでは「あらた同窓会」の紹介をしながら入金の納入促進をお願いしました。

午後3時から「あらた同窓会主催」の新入生茶話会を開催しました。ほぼ全員の新入生と先生方に出席していただき、和気あいあいとしたとても良い雰囲気でした。次年度以降も継続したいものです。オリエンテーションと茶話会の写真は「あらた同窓会HP (<https://aratadousokai.org/>)」のギャラリーページ (<https://aratadousokai.org/gallery/>) からご覧ください。



令和6年度農学部新入生茶話会 (4/3)

「あらた同窓会令和6年度総会および懇親会」を盛大に開催しました

常任副会長 富永 茂人 (園S48卒)

令和6年11月23日(土・勤労感謝の日・旧新嘗祭の日)に「鹿児島大学農学部あらた同窓会」令和6年度総会、懇親会を開催しました。

総会は、令和3及び4年に引き続き、300人収容の「農・獣医共通棟101号教室」で15:00~17:00に開催しました。出席者は50名でした。

総会は、田浦 悟常任幹事(農昭59卒)の司会で進められました。

「あらた同窓会」の藤田晋輔会長(林S37卒)および寺岡行雄農学部長の挨拶の後、岩井 久氏(農S55卒)を議長に選出し、事務局から令和5年度の活動報告(案)、会計報告(案)等、令和6年度の活動計画(案)、予算(案)の議題が提案され、審議の結果いずれも異議なく了承されました。令和6年度は5年毎に実施している「あらた同窓会功労者表彰」の年であり「鹿児島大学農学部功労者表彰規定」に基づき各支部及び本部(事務局)から推薦され、評議員会で審査・承認された藤岡悦治氏(農S46卒・関西支部)、



あらた同窓会令和6年度総会

柳田興平氏(獣S46卒・関西支部)、古賀俊光氏(園S54卒・佐賀支部)、下川悦郎氏(林S44卒・本部)、新納時英氏(獣S44卒・本部)の5氏が事務局から提案され全員が「功労者表彰受賞者」として承認されました。続いて、事務局から会則改正(案)および役員交代・改選(案)が提案され、「あらた同窓会長」に下川悦郎氏(林S44卒)が承認されたのをはじめ、会計監査委員(1名)、学内幹事(4名)、評議員(2名)が新規に就任されました。その後「あらた同窓会功労者表彰式」が挙行、功労者諸氏が挨拶され、総会は滞りなく終了しました。総会閉会にあたり藤田前会長および下川新会長から挨拶がありました。

本総会の議題および審議結果の詳細については本号39ページからの「本部だより」に記載していますのでご覧ください。

なお、令和6年11月23日の「あらた同窓会総会」に合わせて「鹿児島大学農学部ホームカミングデー」(農

学部主催・あらた同窓会共催)が、「あらた同窓会総会」に先立って、農・獣医共通棟101号教室で開催されました。同窓会総会に出席する卒業生の姿も見られました。ホームカミングデーでは、午前中綱引き大会が開催されました。午後には公募していた鹿大農学部のロゴマークが発表され、フォトコンテストの成績発表と表彰式が行われました。<https://aratadousokai.org/> をご覧ください。

総会終了後、「ヴェジマルシェ'19」(稲盛記念館)に移動し、17:30~19:30まで懇親会を開催しました。懇親会の出席者は43名でした。

懇親会は、下川新会長(林S44卒)の挨拶で始まりました。続いて、寺岡農学部長、前田芳實鹿大前学長(畜S42卒)、保岡宏武前衆議院議員(院資H23修)の挨拶があり、懇親会が始まりました。

出席者は1年ぶりの再会を喜び合い、にぎやかな懇親会となりました。懇親会の途中では「功労者表彰受賞者」のうち出席者4人の挨拶がありました。閉会では出席者で最高齢の八幡正則氏(農S26卒)の檄を飛ばす熱気あふれる挨拶に続いて鹿児島高等農林学校校歌「緑したたる南洋の・・・」の斉唱CDが流され、出席者が口ずさむ中、懇親会は終了しました。

なお、令和7年度の総会・懇親会は令和7年11月23日(日)に開催される予定です。



あらた同窓会令和6年度懇親会

あらた同窓会功労者表彰

「あらた同窓会功労者」の表彰式および功労者のご寄稿

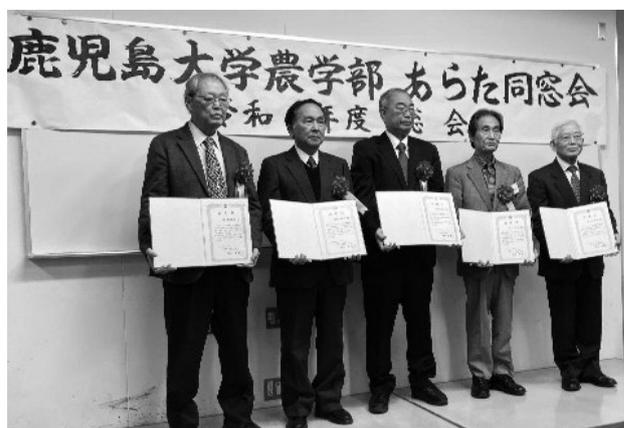
あらた同窓会事務局

令和6(2024)年は5年ごとの「あらた同窓会功労者表彰」の年に当たり、本部および各支部から推薦され、「功労者表彰受賞者」として決定された以下の5人全員の出席のもと、令和6年11月23日の「令和6年度あらた同窓会総会」において表彰式が行われました。

鹿児島大学農学部あらた同窓会功労者

支部等	氏名(敬称略)	卒業学科年次	年齢(才)
関西	藤岡 悦治	農昭46	75
	柳田 興平	獣昭46	75
佐賀	古賀 俊光	園昭54	68
鹿児島	下川 悦郎	林昭44	78
	新納 時英	獣昭44	80

次ページ以降は功労者のご寄稿です。



「功労者一同」

わっぜ?? じゃっど??

関西あらた会 藤岡 悦治 (農S 46卒)



功労者表彰式の藤岡氏

【感謝】

時の流れに任せて粛々と勤めを果たしただけなのに、と思いながら母校での令和6年度あらた同窓会総会に出向き功労者表彰をいただいた。卒業時よりも立派な証書と記念品を受け取り感謝の言葉もない。

【近畿あらた会】

30年以上も前、故・内田昭先輩（大阪府農林技術センター勤務、獣医職）が突然、府庁農林部に来られて「ヨ～藤岡君、近畿あらた会の幹事をしてくれ」と半ば決まったかのような口調で言われた。特段断る理由もないので軽く「ハイ」と返事をしてしまった。今のようにワープロやパソコン、プリンターもない時代で、案内状をはじめ返信はがき、郵便局での会費振込用紙を座敷に並べ、カルタ取りの要領であて名を書いた100枚以上の封筒に入れ、切手を貼る作業に家族を動員したことが懐かしい。現在に至るまで、毎年のあらた会開催を心待ちにする多くの熱心な先輩方が他界した。一方で、若年の新規会員が極めて少なく、総会参加者が減少の一途をたどってきたのには虚しさを感じたりした。何とか兵庫あらた会との共同開催ができないものかと提案してみても、どういう理由かあいまいな返事しか返ってこなかった。時を経てついに兵庫あらた会との合同開催にこぎつけ、さらに今般「関西あらた会」として再スターを切ることができて安堵感に満ちている。

【鹿児島の思い出】

4月の入学式が初めての鹿児島だった（関西出身で入試会場は東京芸術大学）。誰一人知り合いがない鹿児島であったが、“自由だ！！”何の束縛もない一人暮らしにワクワクしていた。まだ友達もできないころ、当時の学生会館横で聞いた会話が強烈だった。やたら「わっぜ、じゃっど…」という言葉が飛び交い、これはきっと“悪い冗談を言い合ってふざけているのだ”と真剣に思った。もっとも多感な6年間を過ごした鹿児島が、いつの間にか真の“ふるさと”とさえ思えるようになった。もちろん鹿児島弁を聞く力は本物に成長し、ついでに「焼酎学士」をもらってもいいほど薩摩酒造の売り上げに貢献した。毎年恒例の徒歩での桜島一周の折には見ず知らずの農家のおじさんからたくさんのピワをもらい、奄美大島旅行では突然の訪問にもかかわらず、公民館に泊めてくれ、夕方になると集落の青年たちが前触れもなく黒糖焼酎を携えてきて宴会をしてくれたり…数多くの場面で、そのたびに鹿児島の人情に触れ大いに感激した。いくら灰が降ろうが四六時中、桜島を眺めることができるのは贅沢だろうと思う。この風景こそが薩摩の心を育てたように感じている。鹿児島出身でないからこそその思いだろうか。口外するのが恥ずかしいほどの数々の失敗もしながらも、一方でよき友と伴侶を得ることができた。これからも鹿児島との付き合いが続くことになるだろう。

総会の翌日、坊津の旅館に投宿した。

密貿易の中核の港、薩摩藩の“隠し金庫”ともいえるのだろう。鑑真和上の上陸地でもあり、大げさに言えば日本の歴史を形作る影の立役者ではないかとさえ感じる静かな湾である。



坊津の夕日

「兵庫あらた会報」の回顧

関西あらた会 柳田 興平 (獣S 46卒)

兵庫あらた会は、昭和25年5月20日に復活されて令和6年5月26日に近畿あらた会と共に「関西あらた会」として新たに設立されるまで、73年間の歴史を刻みました。

私が兵庫あらた会の幹事に選任されたのは昭和54年でしたが、平成元年に故矢野藤雄会長（蚕S 4卒）が総会への出席者の減少対策の一つとして会報発行を企画され、「兵庫あらた同窓会報」として第1号から第5号まで、第6号からは「兵庫あらた会報」として毎年5月の総会時に会員の寄稿と近況報告を主体にして、当時



功労者表彰式の柳田氏

の故山本稔常任幹事（林S22）が編集されました。

私は、常任幹事として庶務会計を平成5年に二ツ木健三常任幹事（獣S41卒）から引き継ぎ、会報の編集は阪神・淡路大震災の年の第7号から令和5年の最終第31号まで担当しました。

第8号では、ワープロの使用によって総会案内、総会資料、名簿、会報作成が非常に楽になり、第18号では、平成10年の但馬に転勤の際には、事務所内でのOA化が進みパソコンに切り替わったので、同窓会資料作成用に廃棄処分予定のオアシス（ワープロ）を持参し、12年の改組50周年記念誌「兵庫あらた会の歩み」（B5版78ページ）もこれを活用したことを記しました。

この記念誌の編集後記にも「記憶は消えるが記録は残る」と記しましたが、後期高齢者となり日常生活でも物忘れが多く自分でも呆れるばかりですが、初期設定時のパスワードを記録していなかったためノートパソコンが起動しなくなりました。

この20年間、近畿あらた会の藤岡悦治常任幹事（農S46卒）には格別にお世話になり厚くお礼申し上げますとともに、「関西あらた会」を快く引き受けて頂きました秋吉博之会長（化S55卒）に心から感謝いたします。

「佐賀あらた会への思い」

佐賀あらた会 古賀 俊光（園S54卒）



功労者表彰式の古賀氏

私は園芸学科を昭和54年に卒業、農学研究科を昭和56年に修了し、昭和56年4月に佐賀県庁に入庁しました。その当時の佐賀あらた会は、故香月熊雄元知事を筆頭に、農林部長や課長にも高等農林や農学部出身の方がおられ、総会開催時には、記憶では80名を超える出席者があり、まさに佐賀あらた会の全盛期であったと思います。

全盛期にあったとはいえ、入庁して初めて、佐賀あらた会に参加した時、約10年ぶりぐらいに、私ともう1名が入会してきたと言われて、大変喜ばれ、かわいがっていただいた記憶があります。その当時から伏線があったのかもしれませんが、30代には会計幹事を任されるようになり、幹事長を経て50代になって、会長をやってくれと、先輩から言われて、会長を8年、そして、現在も会

長を補佐する立場で副会長をさせて頂いているところです。このように長い間、佐賀あらた会に関わらせて頂いていますが、高齢化の進行などから、急速に会員が減少する中にありますが、幸いに毎年1～2名の入会もあって、ここ十数年、総会には約30名程度の参加となっています。

佐賀あらた会の総会は、コロナ禍は別ですが、毎年、7月上旬頃、開催してきましたので、若い人を含めて会員の人たちには、「たなばた」と同じで、毎年1回、先輩、後輩が一堂に会して、鹿児島大学農学部で過ごした思い出を語り合う場と思って、出来るだけ参加するよう声をかけてきました。

この度、図らずも功労者表彰を頂き、大変光栄に存じております。

学生や同窓生の皆様には、青春時代を鹿児島大学農学部で学び、過ごしたという「思い」を受け止められ、卒業後、どこでご活躍されても、思い出を語り合う場として、各地のあらた会に参加されたいかがでしょうか。

最後に鹿児島大学農学部とあらた同窓会のご発展を心から祈念申し上げます。

あらた同窓会功労者表彰を受賞して

鹿児島支部 下川 悦郎（林S44卒）

このたびはあらた同窓会功労者表彰を受け、誠にありがとうございます。同窓会と会員の皆様に御礼申し



功労者表彰式の下川氏

上げます。長年役員（顧問や学内幹事、監事）を務めたことが受賞の理由ですが、同窓会活動に寄与したという実感はあまりありません。

同窓会活動でとくに印象に残っているのは、現役の頃ですが、常任副会長の林 満先生から「玉利喜造先生誕生150年記念シンポジウム」（平成18年11月23日）での記念講演「玉利喜造に学ぶ」を依頼されたことです。これに応えるため、玉利喜造校長に関する情報、特に人となりについての情報を集めようと奔走したことを覚えています。鹿児島市在住のお孫さんには直接お会いしてお話を伺いました。記念のシンポジウムには玉利家から3人のお孫さんが出席され歓談することができました。貴重な経験をさせていただいたと感謝しております。

が、受賞の喜びに浸っている気持ちはすぐに失せてしまいました。令和6年度の総会で同窓会会長の重責を担うことになったからです。会長の職責を果たすことで功労者表彰の榮譽に報いたいと思います。

改めてありがとうございました。

功労者表彰を受けて

鹿児島支部 新納 時英（獣S 44卒）



功労者表彰式の新納氏

今回、あらた同窓会功労者の表彰をしていただいたこと、同窓会並びに関係者の皆様にお礼を申し上げます。私が同窓会活動に表彰されるようなお手伝いをしてきたか内心忸怩たる思いが有りますが、獣医学科卒の鹿児島市役所支部会員として参加をし、評議員として今日に至ったのではと思っています。

この度、開学100周年記念焼酎「あらた百」を呑んだ至福の時を思い出し、改めて「あらた百年の歩み」記念誌にある諸先輩の功績、活躍、想いを讀むにつけ、同窓会の絆の強さを感じた次第です。昨今の組織改正により、獣医学科、畜産学科と学部在籍者は減少しましたが、学部は変わっても、全国から集まった学生が「あらた」の地に学び、現代社会における職域も多種多様になる中、専門的知識と技術を生かし社会人として活動する時、「木戸に立てかけし衣食

住」という言葉がありますが、関係職域で「あらた同窓会」の諸先輩の助言を得る機会があれば「同窓」が親近感を一層増して心強さを感じるのではないのでしょうか。

私も、今後「あらた同窓会」の会員の皆さんに微力ながらお手伝いが出来ればと思っています。

最後に、同窓会の益々の発展を願い、改めて感謝申し上げます。

支部・職域・クラス会・グループ便り

「あらた関東化友会」近況報告

あらた関東化友会会長（関東あらた会会長） 片山 賢治（化S 47卒）

はじめに、昨年10月に秋葉原で開催された鹿児島大学同窓会連合会関東支部総会に、鹿児島よりご参加、また、二次会にもお付き合いいただきました鹿児島大学理事の橋本文雄様、農学部長の寺岡行雄様に厚く御礼申し上げます。

さて、あらた関東化友会は、鹿児島大学農学部農芸化学科卒業生を対象とした同窓会です。会員相互の親睦と交流をとおして、母校の発展を支援することを目的としています。

2007年（平成19年）設立で、17年続いています。毎年春（4月）に総会・懇親会を開催しています。永濱先生は毎回出席されていましたが、近年は奥様が参加されています。

2024年も4月14日、有楽町の東京国際フォーラムで24名の参加で開催しました。

議案が全て承認された総会の後、S44年卒の山口憲治氏の講演「私の化学分析30年」があり、化学分析に対する情熱が感じられ、持ち時間があつという間に過ぎてしまいました。

講演会の後は、懇親会です。焼酎を飲みながら近況報告に花が咲きました。次回の再会を約束し、お開きとなりました。

2025年は4月13日を予定し、会場も予約済みです（会場は2024年と同じ）。

17年の歴史ある会ですが、コロナ禍の3年間は総会・懇親会を開催することが出来ませんでした。その代案として「近況報告集」（右写真）を発行し、親睦と交流を深めました。

農学部農芸化学科は、現在存在しません。会員は減少するのみです。関東を中心に活動していますが、エリアを拡大することで「あらた化友会」を活性化したいと考えています。



2024年あらた関東化友会出席者集合写真



令和6年度 関西あらた会設立総会報告

関西あらた会 会長 秋吉 博之（化S 55卒）

令和6年5月26日（日）に、JR尼崎駅近くのホテルヴィスキオ尼崎で、農学部長寺岡行雄様を来賓にお迎えして18名の参加者のもと、関西あらた会設立総会を開催しました。これまで近畿あらた会と兵庫あらた会との合同で実施してきた活動を発展的に統合し、近畿2府4県に広げて若い卒業生の加入促進を図るとの趣旨から「関西あらた会」が設立され、会長には秋吉博之（化S55卒）が就任しました。

総会冒頭には、訃報のご連絡をいただいた豊釜勇氏（電気S26卒）、平瀬吉磨氏（畜S44卒）、北原賢次郎氏（工S59卒）のご冥福を参加者全員で祈念しました。

秋吉会長の開会挨拶の後、関西あらた会の運営に関する事項が提案され、「関西あらた会会則」「関西あらた会役員」「令和6年度事業計画並びに収支計画」がそれぞれ承認されました。関西あらた会役員として、副会長には嶋田雅之氏（獣S58卒）、常任幹事には瀬戸口恒夫氏（環H7卒）が選出されました。なおその他の関西あらた会役員については、あらた同窓会HP（役員名簿）に掲載されていますので、ご覧ください。

次いで来賓として出席いただきました農学部長寺岡行雄様より、母校・本部同窓会近況報告がありました。この中で、令和6年4月からの鹿児島大学農学部の全面的な改組について説明されました。従来の3学科を（新）農学科1学科とし、「植物資源科学」「環境共生科学」「食品生命科学」および「食農産業・地域マネジメント」の4つのプログラムからなる教育体制となりました。学生は一括入学し、2年次に希望するプログラムに所属することになります。さらに鹿児島大学共同獣医学部に畜産学科が開設されたことなどの報告がありました。



参加者の集合写真



参加者の寄せ書き

続いて特別講演として、西川正雄氏（化S47卒）が「JICAボランティアを経験して－

近年のエクアドル事情－」と題して講演されました。西川氏は関西医科大学微生物学講座を退職後、JICAシニアボランティアとしてエクアドルの国立ロハ大学・バイオテクノロジーセンターに2011年度4次隊として赴任され、2018年7月帰国されました。西川氏はエクアドルの国立ロハ大学・バイオテクノロジーセンターで、実験技術移転と研究者および学生の実験技術向上を目指した技術指導、研究計画および実験計画の作成と実験結

果の整理・解釈および論文執筆の補助などの業務に従事されました。この経験をスライド使って報告されました。

講演の余韻が冷める間もなく記念撮影を行い、懇親会となりました。今回は関西あらた会設立との趣旨から、近畿2府4県の卒業生の方々にも案内をお送りしたところ、岡崎哲夫氏（工S49卒）、乾公正氏（獣S56卒）、本村雄一郎氏（畜S53卒）、右近健一朗氏（生環院H22修）等の方々に参加され、出席者の皆様から近況報告をしていただきました。総会の最後には、田代善和氏（畜S46卒）と太野垣賢治氏（工S49卒）によるご発声で「北辰斜めに」の大合唱となり、次年度には平成7年5月25日（日）にホテルヴィスキオ尼崎で元気に再会することを確認して閉会となりました。その後、多くの方々も2次会へと向かいました。



寺岡農学部長 ご挨拶

【関西あらた会設立総会記念講演要旨】

JICAボランティアを経験して – 近年のエクアドル事情 –

関西あらた会 西川 正雄（化S47卒）

この度、2012年から2018年まで、足かけ6年にわたりJICAシニアボランティアとして南米エクアドル共和国（エクアドル）に赴任する機会を得ましたので、その活動内容とエクアドルを含めた南米の現状について、私が南米への派遣を希望した背景を含めて紹介します。

昭和43年の入学当時、全国の各大学に中南米研究会、ラテンアメリカ研究会、ブラジル研究会、或は移住研究会等々の研究会が存在し、これらが集まって日本学生海外移住連盟（学移連）が組織されていた。我が鹿大・中南米研究会（後に海外研究会、現在は廃部）もその一員として海外学生実習調査団の派遣等の活動を行っていた。しかしながら、当時昭和40年代、50年代は日本の経済成長が軌道に乗り（日本が東南アジア各地でエコノミックアニマルと揶揄されたのもこの時期である）著しい経済発展の直中で移住の意義はやや薄くなり、むしろ故ケネディ大統領が提唱したフロンティアスピリットなる精神の下に、自己啓発のための海外雄飛、また発展途上国支援は如何にあるべきか等を未熟ながらも議論していた。このような環境に身を置きながら、卒業後は微生物、特にウイルスを材料とした遺伝子バイオテクノロジー分野での研究に従事した。丁度定年退職の年にエクアドルから遺伝子バイオテクノロジー分野での研究支援の要請が出され、応募したところ幸いにも採用され、学生時代に考察していた事を具体化する機会を得た。

エクアドルはスペイン語で赤道を意味し、この国が赤道直下にあることから名づけられた。赤道が通っている地域はMitad del Mundoと呼ばれ記念碑が立てられているが最新のGPSを使って求められる位置とは少しずれている。この赤道上では平面に卵を立てることができ、成功した人には証明書を出してくれるが何か手品に似た仕掛け（？）がありそうである。エクアドルは大きく3つの地域、即ち山岳地帯のシエラ（写真中濃いグレー）、その西側に広がる海岸沿いのコスタ及び東側のオリエンテに分かれ気候・風土が大きく異なる。エクアドルの人口は日本の約1/10程であるが大部分はシエラとコスタに集中している。シエラはアンデス山脈に沿って南北に広がる標高の高い地域で標高5000～6000mに達する山々が点在する。北部にある首都キト（グアヤキルに次ぐエクアドル第二の都市で人口約190万人、筆者が生活していたところ工事中であった地下鉄も現在では営業運転を開始している）の標高は2,800mである。筆者が赴任したロハ（Loja）国立大学はロハ県（シエラの最も南に位置し標高1,500m、隣国ペルーと



Mitad del Mundo (世界の真ん中)



国境を接する)に在り、歴史は古く設立は1859年である。エクアドルの学制は日本とはほぼ同様で大学は4年間。大学卒業まで無償である。筆者の職場、バイオテクノロジーセンター (CBT) は学部から独立した研究機関で、学内での審査を経て競争的研究資金を獲得した研究者がプロジェクトリーダーとして独自の研究を行っている。学生は卒業後興味ある内容の研究プロジェクトを選択し、実験実技習得を目的にプロジェクトリーダーの下に集まる。プロジェクトリーダーは2年間彼らの実験を指導しつつ彼らと共にプロジェクトを進行させる。現在のエクアドルではこれ以降の教育機関は無く、上を目指す学生はアルゼンチン、キューバ或はスペインに留学する。実験室は右の写真の様に十分な設備が整っているとは言い難いがバイオテクノロジー分野に於いては近年試薬類の進歩が著しく、必要な試薬類をキットとして詳細なマニュアルと共に一括購入できるので、基本的な設備や機器があれば一定レベルの研究が可能である。中南米地域ではキューバがバイオテクノロジー分野の研究技術が比較的進んでいるとされ、キューバからエクアドルに派遣されている研究者は多い。ただ、これには近年のエクアドルと米国の政治的な関係の影響もありそうである。筆者はCBTのプロジェクトリーダーに助言する立場で赴任し、右に示す研究プロジェクトを題材としてプロジェクトリーダー及び学生への実験技術伝達に携わった。



- 研究プロジェクト
- 1) 遺伝子改変トウモロコシの検出
 - 2) 薬用植物成分作用解析
 - 3) 耕地土壌肥沃度調査
 - 4) プルセラ感染牛遺伝子診断
 - 5) HPV感染PCR検査

この機会を利用して近隣の数か国を訪れたのでその一部を紹介します。筆者の友人の中には“端っこ病”と呼んでいる人もいますが、行き止まりのその先がどうなっているか興味深い。まず訪れたのは南米大陸の南端に位置する島々で構成されるティエラ・デル・フエゴ (火の土地) 州のウスアイア、世界で最も南にある都市として知られる。この辺りでは長い冬の間、常に一定の方向から強い風が吹き続けるので樹木は風の方向に折れ曲がったまま成長しており、冬の厳しさが想像される。ウスアイアはブエノスアイレスから3000km以上離れているが南極まではあと1200km余り、ここウスアイアは南極への玄関口となっている。



世界最大級の川、アマゾン川はエクアドル北部～コロンビア方面から来る川とエクアドル南部～ペルー方面から来る川が合流して形成され、その合流地点がマナウスである。2つの川の水は性質 (pH, 比重、温度) が大きく異なっており、合流しても混じり合うことなく並行して10km以上流れ、やっと混じり合う。また、アマゾンでも森林伐採が進み全体の17%の森が失われたといわれる。そのため、森林保全と農業を両立させるアグロフォレストリー技術の開発・普及がJICA等の支援で進められている。また、マナウスでは学移連の大先輩である佐藤卓司さんが植林活動を継続中である (写真右、左は筆者)。

ペリート・モレノ氷河はパタゴニアでは最大級の氷河である。クルーズ船に乗ると先端を間近に見ることができ、轟音とともに水しぶきを上げて静かな湖面に氷が崩落する瞬間は実に圧巻である。氷河トレッキングに参加すると氷河のオンザロックを楽しむこともできるがこの氷河があるカラファテでは年齢制限があり64才までである。既に65才に達していた筆者は年齢制限がないエル・チャルテンでその目的を果たすことができた。そこでは大小さまざま石が転がる川底を遡って氷河まで歩く。途中目にする大小の石には川の



の流れに沿って同一方向に磨かれた痕跡が見られる。現在の氷河の先端は遙か上流にあり、かつてここまで氷河に覆われていたが地球温暖化により氷河が後退したことを如実に示している。

インカ帝国の遺跡マチュピチュがあるクスコに標高5200mの山頂に広がる絶景がある。NHKグレートネイチャーでもRainbow Mountainとして紹介された虹色に染まる山ビニクンカである。これは衛星写真を見ていた人が周囲とは異なる色をした場所を見つけ位置情報を頼りに探索し2013年に発見された。今では多くの観光客が訪れる観光スポットの1つになっている。しかしながら、自然が我々にプレゼントした絶景としてこれを素直に喜んでばかりいられないような気もする。この虹色の山々は、これまで氷河や雪に覆われて見えなかったものが近年の温暖化により氷や雪が解けて目前に現れたと考えられている。先に述べた氷河の明らかな後退を含め、地球温暖化による気温の上昇は我々を楽しませてくれる一方で積雪量や雨量の増大による甚大な被害が日本だけでなく世界各地で起こっている。地球温暖化に如何に対処するか、我々一人一人が真剣に考えなければならない時が既に来ていると思う。



岡山あらた会 支部便り

岡山あらた会支部長 寺尾 国一 (工S 45)

令和6年6月2日、岡山あらた会を開催いたしました。コロナ禍で5年振りの開催のせいか参加者5名でした。5年間は会員本人ならびに家族との生活環境も大きく変わり、出席常連者も療養者となり、役員の本田副会長、(農S50)、甲斐幹事(院獣S61)も欠席となりました。その中で新たな会員として新社会人の遠藤大知君(農生R6、岡山県庁)の参加があり、若い力をいただきました。他の参加者は、濱脇吉乃夫(農S37・前会長)、江崎文一(化S56)、山本達郎(林S48・幹事)、寺尾国一(工S45・会長)でした。

山本幹事から返信ハガキの報告があり、出席者の再会と会員近況報告で会が始まりました。濱脇さんご持参のペットボトル入りの焼酎(出身地種子島の島之泉)を皆で美味しくいただきました。江崎さんは岡山大学を退職され、最近庭でいろんな果樹栽培に精を出しているとの事。趣味の皮製品作りで皮のポーチを皆さんにいただき、ありがとうございました。

今年は案内送付数39通の中、出席5通、欠席12通、宛先不明6通、返信なし16通でしたが、今年の開催報告を全会員に出して、来年度の参加と「岡山あらた会」の再出発に努力したいと思います。



出席者一同

広島あらた同窓会 支部便り

広島あらた会副会長 辻野 聡 (林H2卒)

今年も昨年同様、異常気象というのでしょうか、師走に入ったというのに、まだ市内では秋の紅葉もこれから、という令和6年12月1日(日)12時から、例年と同じく広島市内の名店「むすびのむさし土橋店」にて、第73回広島あらた同窓会総会を開催しました。

総会には昨年に引き続き、来賓として鹿児島大学農学部長寺岡行雄先生と、もう一方来賓として、この10月に同窓会本部の仲介でお会いした関西支部の本村雄一郎さん(畜S53卒)もお招きしました。お二方とも快く参加いただき、この紙面をお借りして改めてお



出席者の集合写真

礼申し上げます。今年は新たに、寺岡先生の教え子である黒木俊太朗さん（環R5卒）、その後輩で、今年度久しぶりに鹿児島大学出身で広島県新規採用職員となった二神慶多さん（環R6卒）にも参加いただき、総勢14名と、近年になく賑やかな会となりました。



和やかな懇談の様子

平野朝彦会長（林S38卒）の挨拶、田丸猛副会長（蚕S39卒）の乾杯で始まり、途中、各会員の方からの近況報告を交えながら、2時間余りを楽しく過ごすことができました。この度の総会では、新会長（新支部長）を高野茂さん（林H元卒）、新副会長を私、不肖辻野、新幹事を田中朝江さん（生H6卒）が務めるという役員改選案を上程したところ、出席者全員の承認を無事得ることができ、来年度から本格的に新体制で同窓会活動を行っていくことになりました。全国の同窓生の皆様、本紙面を通じてとなりますが、よろしくお願い致します。

今回は、寺岡先生を基軸とした会員の新たな展開、といった感じで、様々な方と出会いの機会を得ることが出来、いい刺激となりました。同窓会とは、昔話に花を咲かせて楽しむところ、という意味だけではなく、出身学校を一つの話題とした出会いの場という側面もあると思います。民間企業にお勤めの方は転勤や転職も多く大変お忙しいとは思いますが、同窓会を、ちょっと昔の話も出て寛げ、年齢の垣根を容易に越えられる出会いの場、と考えていただき、機会を見つけて顔を出していただけると、迎える側としては嬉しい次第です。皆さん、同窓会へちょっと顔を出してみませんか？

令和6年度 福岡県庁あらた会を開催しました

福岡県庁あらた会 幹事長 堤 慎太郎（農H2卒）

令和7年2月1日、頤和園博多駅前店におきまして、福岡県庁あらた会を開催しました。

福岡県庁あらた会は、毎年2月第1土曜日に開催しています。コロナ禍等で3か年は開催を見送りましたが、令和4年度から再開し、今年度も無事開催することができました。当日はOB、現役職員53名の参加があり、今回は鹿児島大学 岩井久 副学長（農S55卒）にもご参加いただきました。



参加者の皆様

当日は、笹川文彦会長（農S63卒）の挨拶に始まり、次に岩井副学長から、ご挨拶とあわせて鹿児島大学農学部の近況をご報告いただきました。

この後、今年度退職される先輩及び新会員の紹介を行いました。退職者は不在であったため、今年初参加された6名の新会員に自己紹介をしていただきました。続いて新役員の紹介を行うとともに、今年度ご逝去された先輩に謹んで哀悼の意を表し、黙祷を捧げました。

全員で写真撮影の後、松本博之先輩（総農S37卒）の乾杯の音頭で宴会が始まりました。OBの先輩、現役の先輩、後輩、若手職員が入り乱れて、久しぶりの再会を懐かしんだり、お互いの近況報告や大学時代の昔話に花が咲き、2時間余りを楽しく過ごしました。



岩井久副学長のご挨拶

最後は、「北辰斜めに」の合唱です。松本和紀副会長（農S62卒）による巻頭言の後、全員で肩を組んでの大合唱となりました。そして、中村征一先輩（農S40卒）の万歳三唱で、盛会のうちにお開きとなりました。

福岡県庁あらた会は、鹿児島大学農学部という縁のもと、普段話す機会のないOBの先輩方、そして他課の先輩、後輩との交流ができる貴重な時間です。これからも会長をはじめ役員一同、この伝統を受け継いでいきたいと思えます。



歓談のひとつ

5年ぶりに佐賀あらた同窓会総会及び懇親会を開催しました

佐賀あらた会 幹事長 森 敬亮（生産H15卒）

令和6年11月9日に令和元年以来5年ぶりとなるリアルでの佐賀あらた同窓会総会及び懇親会を開催しました。現会長である新堂高広会長（園芸学科S59年卒）は令和2年度に会長に選出されましたが、コロナ禍により総会が開催できなかったため新堂会長の元では初のリアルでの開催となりました。

当日は24名が出席し、ご高齢の先輩方の参加は少なかったものの、大学卒業後数年内の若手が多く参加してくれました。

総会においては、まず冒頭に、長らく本同窓会を引っ張ってこられた大先輩の方々がコロナ禍における不開催期間にお亡くなりになられており、その方々への黙祷を捧げました。それに引き続き、原口文男先輩（農学科S45年卒）へ喜寿記念品贈呈を行いました。記念品として、本年、これまでの国民体育大会に代わって新たに国民スポーツ大会（SAGA2024）が佐賀県で開催されたのに伴い来佐された天皇皇后両陛下の長女愛子さまが視察された「名尾手すき和紙」の扇子をお贈りしました。その後、来賓としてお越しいただいた寺岡行雄農学部長に農学部の学科再編等、鹿児島大学の近況についてご報告いただきました。また、幹事長や会長を歴任され佐賀あらた同窓会の発展に貢献されてこられた古賀俊光副会長（園芸S54年卒）が「あらた同窓会功労者」として表彰されることとなり、その報告も行いました。

総会に引き続き行われた懇親会では、新堂会長の乾杯を皮切りに5年ぶりの開催や若手の新規入会を喜び、皆で昔話や近況報告など話に花を咲かせました。最後は古賀副会長の三三七拍子にて盛会のうちにお開きとなりました。来年は今年以上に多くの同窓生が集まることを願っています。



出席者集合写真



原口さんへの喜寿記念品贈呈

熊本あらた会 支部だより

熊本あらた会事務局 書記 北村 勇（生産H10卒）

令和6年11月29日午後7時から熊本市の「アークホテル熊本城前」において、会員31名の参加で、第53回鹿児島大学農学部同窓会熊本あらた会総会及び懇親会を開催しました。

まず、議事に先立ち、ご逝去された先輩方に、謹んで哀悼の意を表し、黙とうを捧げました。

総会は、始めに主催者として村田会長（農S51卒）のあいさつ、次に鹿児島大学の境 雅夫農学部副学部長から来賓あいさつをいただきました。議事については、村田会長の議長のもと提案された令和5年度会務報告及び収支決算、令和6年度会務報告（案）及び収支予算（案）、役員改選について事務局から説明を行い、異議なく承認されました。

懇親会は、村田会長の乾杯に始まり、宴の途中には境副学部長より大学の近況等をパンフレットを使用しながらご報告

いただきました。その後、近況報告も兼ねた自己紹介ということで、高校の教諭と団体勤務職員の若い2名の会員から、学生時代の思い出や現在の仕事内容などの話を紹介いただきました。また、今回の総会で監事を退任された吉田先輩（林S43卒）からこれまでの会の状況をふまえた今後の運営のあり方についてご教授いただきました。参加者は例年に比べ少なかったものの、終始大変賑やかな雰囲気が進み、最後は、巻頭言から「北辰斜に」を参加者で肩を組み全員で歌ったあと、毛利先輩（林S41卒）の万歳三唱で締め上げていただき、盛況のうちに閉会しました。

今後は、総会や別日に行った役員会でもご意見のあった総会等への出席者の増加、特に若い会員が多数参加できるような会の運営となるよう様々な工夫を検討・実施していければと考えています。



出席者の集合写真



毛利大先輩による万歳三唱

鹿児島支部の活動状況の今

鹿児島支部常任幹事 田中 重行（園S62卒）

鹿児島支部の活動について、ご紹介させていただきます。

現在、当支部の令和5年度末（令和6年9月末）で、会員数は322人となっています。

鹿児島大学をはじめ、県（農政部、環境林務部、農業開発総合センター、鹿児島地域振興局）、鹿児島市役所、県農協連、サンケイ化学㈱と、私が勤務しております公益社団法人鹿児島県農業・農村振興協会で構成されています。当協会は、県のOB職員や上記以外の団体の職員なども含まれています。コロナの流行以前は、支部の総会・懇親会と併せて、ボウリング大会を実施し、会員間の交流を図っていましたが、コロナで何もできない状況が数年続いた中で、社会生活や仕事など、様々な面が大きく変化いたしました（実感です）。このような中で、従来から当支部の業務としては、会員名簿の作成と会費の徴収を行い、同窓会本部に報告・納入することが大きなものとなっています。会員数が多いことと、ほとんどの会員は、現職で異動を伴う場合があるため、数年でメンバーが代わっていきますので、スムーズにいかない場合もあります（結構大変です）。また、当支部の役員は、同窓会本部の評議員になっていまして、同窓会本部主催の会合や行事への出席や参加、そのための各所属との連絡・調整などを行っています。各所属の活動状況についても、コロナ流行以前とは、変わってきているようです（なかなかです）。

当支部では、コロナ流行時に予算が執行できずに、繰越金が膨れてきています。そのため、5年度から支部会費は徴収しないことになりました。支部独自の活動は、なかなか難しい状況もありますので、各所属独自の活動の支援、また、同窓会本部主催の会合や行事、本部と各所属との連絡・調整などを優先ということを踏まえながら、今後の支部運営について、膨れた支部予算の繰越金対策の検討を行っています（会費納入者が異動で年々代わるため、簡単に会員に戻すことも難しいです）。

以上、活動状況になっているかどうか分かりませんが、今後も当支部の運営について、いろいろと検討しながら（悩みながら）、あらた同窓会本部の活動・運営にも微力ながら寄与していきたいと考えています。最後に、同窓会員の皆様のご健勝をお祈りいたします。

鹿児島市役所あらた会総会、懇親会報告

鹿児島市役所あらた会 幹事 脇 建二（生H 16卒）

あらた同窓会鹿児島市役所支部は、会員99名にて活動しており、年1回の総会及び懇親会の開催、本部総会への会員派遣、記念品の配布などを行っています。会員には、事務、土木、農業、獣医師などの多様な職種が在籍していることから、情報交換の場として活用されています。

令和2年度から令和4年度にかけて新型コロナウイルスの影響で、総会及び懇親会を開催することができずでしたが、新型コロナウイルスの影響も少なくなってきたということで、令和6年2月5日に4年ぶりに総会及び懇親会を開催し、口々に開催できて良かったとの声をいただいたことから、今年度も、10月29日に総会及び懇親会を開催したところです。

総会では、山口裕史会長（農工S63年卒）と吉松豊副会長（農H2年卒）が選任され、新体制がスタートしました。また、懇親会では、豪華抽選会を開催し、抽選結果に一喜一憂しました。

また、今年度、新たに4名が新規入会し、そのうち3名が懇親会に参加しました。新規会員の挨拶では、緊張している表情ではありましたが、入庁してから日が経っている影響なのか、今後の目標などをしっかりと発表している姿をみて頼もしく感じました。

あらた同窓会常任副会長の冨永先生と農学部長の寺岡先生にも参加していただいて大いに盛り上がり、楽しかった学生時代を思い出すことができました。

最後になりますが、同窓会の幹事を務めて感じるのは、新規会員や若手会員の同窓会離れです。コロナ禍以前は、ほぼ100%入会していましたが、最近はそうではなくなりました。総会等を開催できなかったことも一因であると思いますが、魅力ある同窓会活動や情報交換を行って市役所生活にプラスになったと感じてもらえるよう頑張っていきたいと思っています。



山口新会長による挨拶



懇親会の様子

「おせんしの育珍会」を開催しました

田浦 悟（農S 59卒）

令和6年7月14日、鹿児島中央駅西口「驛亭 さつま」にて「おせんしの育珍会」を開催しました。育珍会は育種学教室の同窓会で、その“おせんし（大人）”の部にあたります。年齢が50歳を過ぎた頃から招集されます。今回は前日の大雨の影響で新幹線の運休が予想されたため、熊本からの参加が見送られました。それを補

う形で育珍会の若手2人が招集されました。若手といっても鹿児島県庁のリタイア組で、次期の有望な会員です。参加者は佐藤宗治先生をはじめ12名でした。萩典宏（農S37）育珍会会長の勇退に伴い、三宅泰郎（農S43）新会長にバトンが渡されました。会はずっとながら学生時代、退職してからの話が尽きず大いに盛り上がりました。コロナ禍の影響で中断している本体の“育珍会”が話題に上がり、復活を若手の新会員に託すことになりました。“おせんし”の来年の開催は参加者の年齢を考慮して、暑くない気候の良い5月に計画することになりました。



出席者の集合写真

おじゃったもんせ 「桜園の会」へ

福岡あらた会 栗之丸 隆太郎（園S56卒）

「会える時に、会わんといかんね～」と誰かがつぶやきました。

1977年に大学に入学して、早いもので50年を迎えようとしています。これからもできるだけ会えるうちに、友の笑顔を見たいものです。

ここで、私たちの「桜園（おうえん）の会」を紹介します。園芸学科昭和56年3月卒業の女性10名、男性16名で作った同窓会です。鹿児島の象徴、桜島の「桜」、園芸の「園」から、そしてお互いを「応援」しようと名付けられました。園芸学科の2年生の時、農学部附属農場指宿植物試験場での2週間の宿泊実習が原点です。「桜園の会」には鹿児島本部、北部九州支部、関東支部などがあります。会を卒業後、定期的で開催しており、最近は帰省や出張、旅行などで誰かが訪れると各地で開催しています。会員への連絡、近況報告はハガキ、手紙からグループメールに変わり、最近はLINEも併用しています。



さて、1月12日は福岡の2名、鹿児島の5名の7名が鹿児島中央駅近くの居酒屋に集まり、当日、行われた「いぶすき菜の花マラソン」の反省会を鹿児島のメンバーが企画してくれました。菓子や手作りみそなどのお土産の交換会から始まり、マラソンの報告、家庭でのやり取り、野菜作り、ゴルフの話などで盛り上がりました。学生時代のようにみんな顔を輝かせて話が弾むたびに、ボトルの焼酎が減っていきました。今後は健康や年金の話になっても、楽しく感謝の気持ちで会を続けていきたいと思えます。また元気で会いましょう。

結びに、寄稿の機会をいただきました、あらた同窓会並びに園芸学科の先輩でもある富永茂人常任副会長にも感謝を申し上げます。



会員からの寄稿（エッセーなど）

社会人1年目の生活

岡山支部 遠藤 大知（農生R6卒）

鹿児島での4年間の大学生活を終え、令和6年度地元の岡山県庁に入庁しました。大学では果樹園芸学研究室に所属しており、入庁後は果樹担当として活躍していくことを夢に描いていましたが、野菜担当になり、0からのスタートとなりました。野菜の農業普及指導員として、農業者への技術指導や新技術の実証に取り組むだけではなく、産地の振興のため関係機関のコーディネートなどの業務も行っています。普及指導員は、農業者に直接接する機会が多く、生産者の反応や変化がダイレクトに伝わってきます。農業者への支援を通じて、「病害虫が減った。」「うまくいった。」という笑顔を見られることが最大の魅力だと思います。担当している井笠地域では、たまねぎやいちご、なすなど一般的な野菜のほかに、トレビスというなかなか知っている人が少ない特産野菜が栽培されています。昨年は夏季の高温が目立ち、現場では高温対



令和5年農学部卒業祝賀会
(向かって右が本人)

応技術が求められています。高温対策という現場のニーズに応じていくために、大学時代にお世話になった鹿児島の知り合いの農業者に連絡をとり、情報収集を行っています。学生時代に農業者との関わりをもってよかった、鹿児島で学生時代を過ごせてよかったと感じております。

プライベートでは、陸上競技やり投を続けており、中国5県選手権に出場しました。業務量が多く忙しい時期もありますが、計画的に業務を進め、終業後はできるだけ陸上競技場に向かい、2時間程度練習をしており、好きなことをする時間の確保ができています。連休に合わせて有給休暇を取得し、遠征にも行っています。

同窓会の活動としては、6月に、岡山あらた会に参加させていただきました。4名の先輩方の学生時代や社会に出てからの貴重な経験談などを聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今年も多く先輩方にお会いできることを楽しみにしております。



陸上競技やり投げ中国5県選手権

人生いろいろ、種子島生活の所感 (種子島生活 その3)

大分あらた会支部長 永井 定明（農S52卒）

1. 種子島で過ごすと思った理由の1つは

親しい友人が次々と世を去っていく中で、このまま幾ばくかの稼ぎのために人生を費やして良いのか？自問する中でもう就職はやめようと7年前（65歳）に決断、残りの人生自由気ままやりたい事をやってそして終わりたい。そんなことから妻の実家種子島で大分と種子島での二重生活を始めた。

2. 種子島の生活

種子島の古家の改修やお楽しみ農業、趣味の魚釣りなど楽しみながら生活している。持病を抱えているため医療機関が少ない種子島に移住は出来ず、種

子島へ年に2回程度渡り2～3か月間単身での滞在生活を送っている。当初は『今までの知識を生かして、種子島の農業に一石を投じられないか』なんて大それたことも考えたが、実際には本土とは気候が大きく違うため自分の能力ではとても太刀打ちできないことを思い知らされた。

3. 島の日常

結局、退職高齢者のゆるい人生を自由で気ままに暮らしていくことにした。朝8時過ぎに起床、ストレッチ体操などで体を馴らし朝食や洗濯などを済ませTVドラマを見ると昼になる、午後からやっと農作業や釣りや買い物、夕方6時から苦戦の夕食づくりとテレビを見ながらの独酌、夜12時頃就寝というのが1日のライフスタイルである。今住む南種子町島間は人口が激減し極端に高齢化が進み、昼間でも人との出会いは少なく、単身生活者は孤独感や疎外感に苛まれる。しかし最近はこの環境にも少し慣れ、数少ない知人がたまに訪れてくれるようにも

なった。そんな不便で寂しい環境ではあるが、妻が作ってくれる食事を待つだけの楽な生活よりも太陽の日差しを身体一杯に浴び、農作業や魚釣りや磯遊びなどが自由にできる島の生活は、張りがあり生きている実感が湧いてくる。

4. 図らずも病気に

そんな生活も病気をしなければ問題ないのだが、昨年6月に脊柱管狭窄と椎間板ヘルニア、すべり症を合併して、激痛で動けずに息子の居る博多へ運ばれ手術することになった。これまで節制してこなかったツケで心臓をはじめ身体のあちこちにガタがきており、今回の手術で流石にこれからは1人での島生活は無理だと感じた。これまで種子島に来てやりたいことは一通りやったので一応満足し、これからは妻も孫の世話から解放されたので『楽しいゆるい人生』を一緒に過ごそうと思っている。



①アコウの木アーチ



②ヘゴ自生群落地



③巨大アコウ



④大ソテツ

5. 島の良さ

種子島には見どころが沢山ある。長く滞在し南種子町内の観光地はほぼ巡っているが、西之表市や中種子町はあまり探索して来なかった。今年3月に親戚の人に西之表市や中種子の巨大アコウの木のアーチ（写真①）ヘゴの自生群落（写真②）奥神社の巨大アコウの木（写真③）中種子町豊受神社の大ソテツ（写真④）種子島家老羽生家（将棋の羽生名人の家）、浦田海水浴場など観光地を案内してもらい、こんな素晴らしいとこ

ろがあるのだと感動した。今夏、孫の1人が種子島へ初入りし、海水浴（写真⑤）や釣りを楽しみ、種子島が大好きになったことから毎年夏休みには島で遊ばせるのが爺ちゃんの仕事になりそうだ。



⑤海水浴

たまに台風で家や農園に被害が出たり鹿の被害にあったりするが、のんびりとゆるい人生を送る私にはほとんど影響はない。

冬でも比較的暖かな気候やロケットの打ち上げ見学（写真⑥）青く澄んだ海で魚釣り、亀の手取り、夜空に瞬く満天の星くずなど生きる刺激が満載でのんびりゆるい人生を送るには最適である。



⑥ロケット打ち上げ

6. 島の将来

今、種子島は自衛隊の基地整備で大きく変わろうとしている。特に馬毛島基地予算頼りの産業の振興や安全な生活環境がどうなっていくのか心配であるが、島に住んでいる人達はそんなことはあまり気にせず、実に明るくおおらかに『今を生きて』いる。



馬毛島基地整備工事



東シナ海に沈む夕陽

私は種子島を残りのゆるい人生を過ごせる理想的な場所として大切に楽しんでいきたい。

阿蘇への大人1日修学旅行

鹿児島支部 瀧川（旧姓・犬童）憲洋（農S52卒）

私は学生生活の大半を農学部農学科育種学研究室で過ごしました。卒業以来、各々の結婚式出席を皮切りに、最近では「育珍会（育種学研究室OBの同窓会）」を含め、定期的に旧交を温めている研究室仲間

がいます。そんな仲間と今回初めて熊本阿蘇の地で現地集合現地解散の「大人1日修学旅行」を挙行政しました。メンバーは1学年先輩の村田達郎氏、北野常盤氏、同学年の深水清秀氏と筆者の4名です。令和6年11月のある晴れた日に、村田氏は熊本県菊池市から、北野氏は山口県岩国市から、深水氏と私は鹿児島市からそれぞれ移動し、現地集合となりました。主な訪問先は最近移転した東海大学農学部阿蘇熊本臨空キャンパス、東海大学農学部旧阿蘇キャ

ンパス震災遺構です。村田先輩が永年九州東海大学農学部の教職に就かれ、現在東海大学名誉教授の役職である関係で今回の訪問が実現した次第です。

熊本臨空キャンパスでは、農学の教育研究の新しい「知の拠点」としての施設や研究室を随所に見学することができました。全ての研究室が廊下からガラス越しにオープンになっているのには新鮮な驚きがありました。その後、村田先輩の車でドライブし



(写真左より深水氏、筆者、北野氏、村田氏)

ながら先輩の馴染みの南阿蘇の眺望のいい喫茶店で美味しいカレーやコーヒーの昼食を堪能しました。そこで学生時代の思い出話に花が咲き、至福の時間を過ごしました(写真)。

次に、旧農学部キャンパス震災遺構を訪れました。

2016年熊本地震以降、初めて訪れたわけですが、個人的にはかなり昔、旧キャンパスの村田先輩を訪ねて以来でしたので、その時の日常の景観と交錯して、震災当時の教職員や学生の皆様に思いを馳せることでした。その後、地元の方ならではのルートを通り阿蘇の雄大な風景に魅了されつつ、農学部臨空キャンパスに戻って、再び施設見学の後解散し、各々帰路に着きました。

今回の「阿蘇大人修学旅行」は阿蘇の大自然の中で、素敵な仲間との旧交を温めた『癒しの旅』であると同時に『学びの旅』の思い出深い1日となりました。

終わりに、今回の熊本阿蘇での『大人1日修学旅行』を企画立案から当日のガイドまで有形無形にお世話になった村田達郎先輩にあらためて感謝申し上げます。

テッポウユリの育種に携わって

鹿児島支部 今給黎 征郎 (化H4卒)

私は、平成4年3月に農芸化学科(肥料学研究室)を卒業し、当年4月から鹿児島県の農業技師として働き始めました。当時、配属された栗野農業改良普及所で花き担当になり、それから現在まで32年間、花一筋の人生を歩んでいます。その中で、平成23年から農業開発総合センターでテッポウユリの育種に携わることになりました。ご存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、鹿児島県沖永良部島のテッポウユリは明治時代から海外で人気があり、島で生産された数千万球の球根が欧米に輸出されていたことがあります。そのため、県でも昭和38年頃からテッポウユリの育種に50年以上取り組んでおり、現在でも鹿児島県の特産品となっています。



私が育種に携わる頃は、テッポウユリの需要が低迷しており、新規性のある品種を育成することが目標でした。中でも、無花粉品種の育成は重要な課題となっていました。私は平成26年頃から外部資金の獲得も兼ねて、縁もゆかりもなかった新潟大学(ユリ育種に詳しい教授)と秋田県農業試験場(無花粉ユリの遺伝資源を保有)を訪れ、無花粉ユリ育種に関する共同研究ができないか提案しました。提案後2年を経てようやく国の公募事業への応募に至り、採択率が低いこの

事業において、奇跡的に応募1年目にして採択されました。そして平成28年度から5年間、無花粉テッポウユリの育種に取り組むことができました。

詳細は省略しますが、5年間で実用的な品種育成までは至りませんでした。無花粉個体を作成する手法の習得や無花粉の遺伝資源を多数得ることができました(図1)。事業終了後、その成果を2年間かけて「シンテッポウユリとテッポウユリの交配による無花粉テッポウユリ類系統の育成」として論文にまとめ、園芸学会に投稿したところ、令和6年3月に年間優秀論文賞をいただきました。この受賞は、新潟や秋田を訪れた頃からの苦勞が報われた大きな喜びとなりました。



図1 促成栽培で開花した無花粉有望系統

話は変わりますが、新規性のあるテッポウユリを求めの中で、平成25年に偶発的に誕生したのが八重咲きのテッポウユリです。これが後に、世界初の八重咲きテッポウユリ品種「咲八姫(さくやひめ)」となりました。咲八姫は、その豪華な花型や草姿の良さ、花持ちの良さなどが高く評価され、ジャパンフラワーセレクションで2022年のフラワーオブザイヤーを受賞しました(図2)。「咲八姫」は、鹿児島県がテッポウユリの育種に取り組み始めて50年目にして誕生した初の八重品種であ



図2 「咲八姫」フラワーオブザイヤー受賞記念POP

り、「50年目の奇跡」とも言われ高値で販売されるようになりました。しかし、高度な栽培管理が求められるため、普及から3年目の令和6年ようやく、沖永良部島で2万本ほどが3～4月に出荷できるようになりました。また、令和5年には鹿児島大学のインターンシップ学生5人（うち4人が農学部）が鹿児島県経済連で「咲八姫のプロモーション提案」に取り組んだ際、「50年目の奇跡」にちなみ「あなたに逢えた奇跡」という花言葉を考案し、ブライダルでの咲八姫の利用を提案しました。現在、県ではこの花言葉を生かし、ブライダルなど大切な人へ贈る花としてPRに

取り組んでいます（図3）。

このように、仕事として偶然花に携わることになり、その中で県が長年取り組んできたテッポウユリの育種にも関わることができ、本当に貴重な経験となりました。



図3 鹿児島大学生が考案した花言葉「あなたに逢えた奇跡」を利用したブライダル用PRポスター

西バルカン諸国のこと

鹿児島支部 福山 誠（林S63卒）

「バルカン」という用語は聞いたことはないが、「ユーゴスラビア」という国名には馴染みがあるという方は、特に昭和世代に多いと思う。チトー大統領という偉大なリーダーが率いていた国であるが、1991年から始まった紛争の結果解体され、現在はスロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア、モンテネグロ、コソボ、北マケドニアの7カ国となっている。西バルカン諸国は、上記の国々からスロベニアを除き、アルバニアを加えた7カ国というのが一般的な概念である。

筆者は現在、政府開発援助（ODA）の業務のため、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、コソボ、アルバニアの4カ国でのプロジェクトに従事している。プロジェクトの目的は、生態系を活用した防災・減災に係る関連機関の能力強化である。これらの国々の西側はアドリア海（対岸はイタリア）に面した地中海性気候のため、特に夏季の乾燥が激しいことから、主に森林火災対策に重点が置かれている。

地中海性気候ということは、ブドウの産地であり、必然的に全ての国でワインが製造されている。中でも最も生産量が多いと言われているのがモンテネグロであり、大手スーパーで、1ユーロ代でワインが売られているのを見て驚いたものである。日本円で280円（1.69ユーロ）なので、「安かろう悪かろうを覚悟で買って飲んだところ、質は決して悪くなかった。モンテネグロは海に面しているのだから、さぞかし白ワインに合うシーフードも楽しめるものと期待していたが、プロジェクトサイトのあるウルツィニという海沿いの町でもシーフードを出すレストランは極めて限られていて、落胆した。海に生息する魚の種類も多様なはずであるが、スズキ（sea bass）やタイ（sea bream）の

類程度しかなく、日本人からすれば、漁業が発達しない理由が全く以て不明である。

一方、南の隣国であるアルバニアでは、モンテネグロと比較すればシーフードの普及度合いはかなり高い。首都ティラナでは、ローカルのシーフードレストランで、ほとんど生の状態の魚介類をカルパッチョのような感じで存分に味わうことができる。因みに、アルバニアは1991年までほとんど鎖国をしていた社会主義国であったため、全体的に開発は遅れているものの、特に南部のギリシャに近い海岸沿いの地域では観光開発が急速に進みつつある。

4カ国を跨いで移動する際は、空路での直行便はないので、車両での移動となる。これまで最も長時間の移動は、アルバニアとボスニア・ヘルツェゴビナの約10時間（休憩含む）である。10時間と言えはかなり長距離かと思われるが、実は鹿児島から小倉までと同じ400km程度しかない。

高速道路がほとんどないためこれだけの時間がかかるが、それぞれの国は小国であることが実感できる。

ボスニア・ヘルツェゴビナとは聞き慣れない国名と思われるかもしれないが、首都がサラエボと言えは、イメージが湧く方も多いと思う。まだユーゴスラビアの時代の1984年に冬季オリンピックが開催された都市である。上述の通り、その後の紛争によりユーゴスラビアは崩壊したが、当時スナイパー通りと称された通りに面した職場（治安省）で仕事をしていると感慨深いものがある。サラエボで思い出すのは、偶然入ったレストランで元サッカー日本代表監督のオシム氏のお



オシム元監督のお嬢さんと（左端が筆者）

嬢さんにお会いし、話をさせて頂く機会があったことである。オシム氏は同国出身で、その店の常連だったとのことで、一緒に写真を撮らせて頂いた。

最後に、西バルカンの4カ国に限らず、海外で仕事をしていると、特にここ10年程、我が国に対する非常に高い評価・期待を耳にする機会が増えてきた感じがする。それは、日本の文化（アニメ、料理、スポーツ、観光名所など）、開発途上国への支援、国際社会でのリーダーシップ、高い民度など多岐に亘るが、

一方で、この状態がいつまで続くのか、下がることはあっても上がることはないのでは、という不安も同時に抱くようになった。これからの世界はこれまでも増して分断が進み、混沌とした時代となると予期されるが、まずは自分ができることとして、このような礎を築いてこられた先人への感謝の念を忘れず、現在の日本及び日本人に対する高い評価や敬意を次世代に引き継ぐべく、不断の努力を続けていきたいと考えている。

学生便り

（「ビバキャンパスライフ」、
「教育実習体験記」および「留学体験記」）



繋がりで成長できた4年間、 これからも

農業生産科学科 応用植物科学コース
園芸作物生産学研究室 学部4年
本田 りくと

私には、2つの柱があります。1つは農業、もう1つは陸上です。

1年生の冬、私は、大学を4年間で卒業しないことを決意しました。恩師の「せっかくの大学生活4年間じゃ勿体ない」その言葉に背中を押され、私は、農業をより現場で学ぶべく、2年生になる前に1年間休学しました。

農業高校から推薦で鹿児島大学に入った私は、入学当初、「他と異なり、新しい風になること」が推薦入学者の使命だと考えていました。遠隔授業が大半だった1年生の前期は、どの授業でも顔を出して発言しました。その講義の1つで、恩師と出会い、その繋がりで、1年生の後期からは垂水市の農家の下に毎週末通い詰めました。

休学の1年間は、怒涛の日々で、住み込みで約1ヶ月ずつ、9軒の農家の下で、土づくりから農業

経営まで、時には日常生活まで様々な勉強をさせて頂きました。今では、この現場での経験が、専門分野のより深い理解に繋がっていると感じます。

この休学期間、メンタルが疲弊し何度も心が崩れそうになった時もありました。その時の支えが、もう1つの柱である陸上でした。大学入学を機にサークルで始めた長距離でしたが、休学中も心が疲れた時は、ランニングがとても良いリフレッシュになりました。大会等で仲間たちと近況報告し合い貰った勇気は計り知れません。

現在は、新しい学年の仲間達にも恵まれ、そこでもたくさんの勇気をもらいながら生活しています。休学したことで幸運にも、新しい研究室の1期生として厳しくも熱い先生の下で研究をスタートすることができました。

私の座右の銘は「文武両道」で、私にとっての文は生業の農業、武は陸上です。残りの大学生活の目標は、学会発表できるように研究分野を探求することと、長距離を全力で楽しんでより多くの人に勇気を振り撒くことです。

現状に満足せず、「本田りくと」らしく多くの人に勇気を与えられる人間になれるように感謝を忘れず今後も邁進していきます。



ミートジャッジング競技会を 通して経験したこと

農業生産科学科 畜産科学コース
栄養生化学・飼料化学研究室 学部4年
石橋 果歩

私は4年生の7月にオーストラリアで開催されるミートジャッジング競技会（ICMJ競技会）に参加さ

せていただきました。ICMJ競技会では、実際に牛・豚・羊の枝肉や部分肉・精肉を見て評価し競い合うだけでなく、オーストラリアの牛や羊の農場へ見学に行ったり、畜産に関わるオーストラリアやアメリカの学生の人たちとともに、畜産に関する講義を受け、意見を交換したり、工場などで導入される機械技術やお肉の調理方法等、様々なことを学びました。

ICMJ競技会までの準備期間は、大学での研究など

とともに限られた時間の中で勉強する必要があったうえ、日本で開催されたICMJ大会と比べ覚えるべき内容も種目も格段に多くなり大変でしたが、部分肉・精肉部門で個人成績5位という結果や日本チームでもいくつか好成績を残すことができ、本当に嬉しかったです。またICMJ競技会に参加させていただき、日本では見ることのできない大きな農場や工場を見学したり、オーストラリアの畜産業について学ばせていただき、今後の日本の畜産業の問題を痛感するとともに、新しい発見に本当にわくわくする時間を過ごさせていただきました。加えて、海外の学生は自分の考えを積極的に発信し、授業中でも絶え

ず質問が飛び交っており、その時に学習できる最大限のことを吸収しているという印象で、畜産業に対する海外の学生の意欲の高さにも非常に衝撃を受けたのを覚えています。

ICMJ競技会を通して、オーストラリアの農場見学や、畜産業に関わる海外の学生と意見を交換できたことは本当に貴重な経験であったと思いますし、ICMJ競技会に参加させていただいたことで自分に必要なことを発見することができ、成長できたと思います。今後もこの経験を忘れずに何事も積極的に取り組んでいきたいと思っています。



3年間を振り返って

農業生産科学科 食料農業経済学コース
農業経済学研究室 学部3年
辻 和真

農学部農業生産科学科に入学してから3年経過し、来年はもう4年生になります。

改めて大学での3年間を振り返った時、初めての挑戦ばかりの3年間でした。入学したばかりの頃は生物に関する知識がほほない状態で、授業時間外でも周りに置いていかれないよう長い時間をかけ勉強しなくてはならないと考えていました。しかし、先生方の丁寧な講義のおかげで1回1回の授業も理解しやすく、実際に農場に出るなどして体験を通して学習することも多く、楽しく退屈することのない生活を送っています。特に印象的だった講義は2年後期の科目で学内農場、唐湊果樹園で実際に作物の播種から収穫までを体験し、そこでは作物を育てるこ

との大変さ、地道さを学ぶとともに、農場で作物を育てることの楽しさを学ぶことができました。現在は、食料農業経済学コースに在籍していますが、自身で課題を見つけ、周りの人と意見を共有する機会が以前よりも増え、さまざまな方の意見に触れること、関わるが多く、日々刺激の多い毎日を送っています。

また、大学生になって初めて吹奏楽を始めました。できないことも多かったですが、練習中にできなかった部分は授業の間に練習するなどし、日々仲間と共に練習を重ねた毎日でした。それらの成果もあり、今年度の九州・県吹奏楽コンクール共に団として金賞を受賞することもできました。特に今年は、九州吹奏楽コンクールの日程に台風が重なり、前日の夜に現地に着し、自分たちができる限りのことを尽くした中での金賞だったので大変印象に残っています。

これからは大学生活において「最後」という言葉がつく場面が増えるので、より一層学業・サークル活動ともに力を入れていきたいです。



教育実習を終えて

食料生命科学科 食品機能科学コース
生命高分子化学研究室 学部4年
小八ヶ代 結生

私は5月8日から21日の2週間、母校である都城西高等学校で教育実習に参加した。実習初日から顔合わせもかねて生徒の前で話をする時間を与えられたが、初めて教壇に立ったこの時はとても緊張して

いた。どのような話なら興味を持ってもらえるか判らず、生徒からの質問に答える形でその時間は終わった。生徒は受験勉強や大学生活について沢山質問してくれて、話すたびに反応を返してくれた。実際に教壇に立ってみると、生徒から反応があることの有難みを感じた。初日で不安な気持ちも大きかったが、生徒が受け入れてくれたことがとても嬉しかった。

実習では授業見学や担当クラスの日誌の添削などに取り組んだが、中でも最も印象に残っていることは研究授業である。研究授業に向けて先生方の授業

を見学し、準備している教材や話し方など、どのように工夫しているかを学んだ。しかし、いざ自身の本番になると、授業の進行だけで頭がいっぱいになり、学んだことを十分に活かすことが出来なかったように思う。

教える側での授業を体験して考えたことは、教材研究には終わりが無い、ということだ。自分が当たり前に理解している事でも、初めて学ぶ生徒にとっては疑問に思うことがある。どのような疑問にも答えを出せるように、生徒の立場になって教材を見直

し、準備することが大事だと感じた。

教育実習を通して教員という仕事の大変さを痛感した。生徒や学校のために見えない部分で多くの時間を費やしていると改めて気づかされた。しかし、教員としての楽しさや喜びも経験した。自分の説明で生徒が理解してくれた時や、授業後に感想を言ってもらえた時など、やりがいを感じる事が出来た。始まればあっという間に終わってしまったが、充実した実習になったのは嬉しい言葉を沢山かけてくれた生徒たちのおかげである。



興味のため、人生をやり直し

農林資源科学専攻 植物生産科学コース
植物栄養・肥料学研究室 修士1年
張 顧良

私は40歳で2人の子供の父親です。日本に来る前は中国の職場で13年間、戸惑いながらも懸命に働いていました。

私は子供の頃から花や野菜を育てるのが好きでした。子供の頃、私の家族は庭のある一戸建ての家に住んでいました。父と庭でトマトやピーマンなどの野菜を植え、収穫して近所の人に配りました。私は労働の成果を分かち合うということから、植物を育てる喜びを体験することができました。その後、家族で高層ビルに引っ越し、庭がなくなったのでベランダで植物を育てることにしました。ベランダには土がないので、塩ビ水道管とプラスチックの箱、水中ポンプを使って土を使わない栽培施設を自作しました。ベランダでは日当たりが悪いので、基板やLED発光チップ、定流電源などを購入して植物育成

ライトを自作しました。私の故郷の冬は寒くて乾燥しすぎるので、超音波噴霧器、ヒーター、温湿度センサーなどを使って、ベランダを温度と湿度が自動調整できる温室に変えました。

私はこれまで多くの野菜を栽培してきましたが、栽培の過程で次々と疑問が見つかりました。なぜキュウリやトマトは栽培初期には窒素を多く含む養液を使用し、結実期にはリンやカリウムを多く含む養液を使用するのでしょうか？なぜ循環式水耕栽培システムでは植物がよく栄養失調に陥るのでしょうか？なぜ新しい養液に交換すると、植物の健康が回復するのでしょうか？

そして、私は決意をして、仕事を辞め、日本へ来ました。

現在、私は鹿児島大学の植物栄養・肥料学研究室に所属しており、毎日先生方の丁寧な指導を受けながら、自分の興味のあることに関する疑問を解決しながら、大好きな植物栽培について日々楽しく研究しており、生活はとても充実しています。

私はもう一度社会に出たら農業研究者になって、興味を活かして人生をやり直したいと思っています。



概念を形成する所

食料生命科学科 焼酎発酵・微生物学コース
焼酎製造学研究室 学部4年
中野 伊吹

私は7月の初めの週から2週間、母校で高校2、3年・化学担当として教育実習に行ってきました。そこでは大変な事、うれしかった事など沢山の事がありました。

「学校は生徒が化学の概念を形成する所だ。」この言葉を担当の先生から言われたとき大きな衝撃が走りました。塾では学校で習った事を復習、定着させる事が目的な事が多いですが、学校では、生徒にとって初見の事柄を教えます。そのため、正しい語句選びをし、生徒に、化学とはどういう物か、というイメージ、概念を形成させる事が大切です。

私は10回程度教壇に立ち授業を行いました。最初の数回では生徒にあまり理解をしてもらえず上手く授業を行う事が出来ておらず、とても悔しい思いをしました。それは自分が理解出来ているから生徒

も理解出来るはずだ、と考えていたからです。その際に担当の先生に先ほどの言葉を言われ、自分だけではなく、生徒の事を考えて授業する事の大切さに気づかされました。その後、それまで以上に教材研究をし、少しずつ生徒の反応も良くなり、先生方も褒めてくださるような授業が出来るようになりました。その時の生徒の楽しそうに私の授業を受ける顔は今でも忘れられません。

正直、私は教育実習中に何度もやめたい、きつい、と考えていました。しかし上手く授業が出来

て、生徒の反応も良かったとき、「ああ、頑張った甲斐があった。頑張れば生徒もついてきてくれる。」と先生のやり甲斐を直に感じる事ができ、とてもうれしかったです。またその2週間は確実に自分を成長させてくれました。ご指導して下さった先生方、親しく接してくれた生徒には本当に感謝しかないと考えています。

将来、教職の道に進むかは分かりませんが、今回の2週間で学んだこと、感じたことを忘れず色々な事に挑戦していきたいと考えています。



鹿大での4年間

農林環境科学科 森林科学コース

育林学研究室 学部4年

坂元 小梅

鹿児島大学での4年間の生活を振り返ると、特に濃い時間を過ごしたと感じるのは、研究室配属後の2年間である。私の所属している研究室は、コースの中でも特に活動が盛んなところで、ゼミでの発表は前期・後期に2回ずつ実施され、また、夏休みには4年生や修士の先輩方の野外調査に参加したり、実験のお手伝いをしたりなど、3年生のうちいろいろな調査活動に参加した。特に印象的だったのは、樹木の根を採取するという活動である。調査はどれも忍耐や丁寧が必要なものばかりであるが、特にこの根の採取は、細根というすぐちぎれてしまいそうな根を採る作業であったため、根を切らないように慎重になりながら作業をした。時間がかなり

かかってしまったが、ちぎれることなく根が採れた際には、大きな達成感があった。これから研究室に入る方々には、研究室で行う調査や実験などの活動に積極的に参加してみることをおすすめする。大変なこともたくさんあると思うが、卒論などに取り組むとき、その経験が役に立つこともあるし、何より先輩方や先生方と交流できる良い機会だと思う。

4年生ではついに卒業論文研究が始まり、めまぐるしい日々を送っている。いつのまにか1月になってびっくりしている。自分の卒論のテーマは外来植物なのだが、卒論に取り組むうちに、植物の名前を覚える楽しさを知ることができたことが、一番大きな収穫だと思う。卒論計画作りから調査、学会など、初めてのことばかりで不安に思うことが度々あったけれど、先生方や研究室の皆さんにたくさん助けてもらったおかげで、どうにか進めることができた。

来年度からは修士として、引き続き研究室にお世話になる予定のため、これからは自分も研究室の皆さんの役に立てるように、頑張っていきたい。



大学生活での経験

農林環境科学科 地域環境システム学コース

農業環境システム学研究室 学部3年

永田 爽華

私が鹿児島大学に入学してから、3年が経ち多くの経験を得ることができました。特に印象に残っているのは、10日間のインターンシップです。このインターンシップは、鹿児島大学が実施している地域人材育成プラットフォームの「かごしまキャリア教育プログラム」の一環で経験しました。10日間のイン

ターンシップは、企業さんがあるテーマを設定し、それを解決するためにどうすればいいかをプレゼンすることでした。私自身が提示されたテーマは「20~30代のお客さんを増やすための集客プラン」というものでした。実際に、10日間で業務を体験し、ということが課題として挙げられるのか、アンケートを行って他の人からの意見を参考にするなど、今まで経験したことがない経験をしました。私はこのインターンシップに先輩と2人で参加し、グループでの自分の立ち回り、状況に合わせて自分がどういう動きをすればいいのかといった状況判断力、コミュニケーション能力の大切さなど多くのことを学ぶことができました。また、インターンシップに行

くということ最低限のマナーも必要とされるので、マナーやメールの返事の仕方なども学びました。

今まで私自身積極的に行動せず、誰かが動いたら行動するタイプでした。しかしこのインターンシップによって、周りを見て自分も動いた方がいいとか、実際にお客さんと触れ合う機会もありお客さんに伝えたいことをうまく伝えるにはどうすればいい

のかなどといった、いろいろな場面で考えることが多く、自分の成長につながることができました。

大学生活は、本当にいろいろな体験ができます。私自身、インターンシップに参加したり、芋を育てて販売したり、ポスター発表をしたりといった多くの経験をしてきました。この経験は、確実に自分の成長の糧となるので、ぜひ色々なことに挑戦してみてください。



タイへの留学体験記

国際食料資源学特別コース
果樹園芸学研究室 学部4年
三宮 美結

4年生の4月から1か月間、卒業プロジェクトのためにタイへ行きました。大学生のうちに海外に行きたいと思い、国際コースを選んだこともあり、卒業プロジェクトは海外で行うことに決めました。

タイでの生活は、空港での少しユニークな体験から始まりました。初日、指導教員が空港まで迎えに来てくださったのですが、農場から直接来られたため、車の後部座席には大量のドリアンが積まれていました。その強い匂いに気分が悪くなり、大変なスタートとなり

ましたが、その後の滞在は素晴らしいものとなりました。

タイでは、果樹園を巡り、熱帯果樹の栽培方法について調査しました。日本では見られない果物が多く栽培されており、また、日本ではビニールハウスで栽培される作物がタイでは露地栽培されている点が特に興味深



調査に行ったココナッツ果樹園

く感じました。研究室では、フィールドで収穫された果物を毎日のように食べることができました。特に初めて食べたグアバの味は格別で、今でも忘れられません。空き時間には、研究室で一緒だった院生の実験や調査を手伝うこともあり、さまざまな経験を積むことができました。

タイ語が話せないことへの不安もありましたが、学内では英語が通じ、大学外では教授や院生が通訳してくれたため、生活は快適でした。一番心配していたのは食生活でしたが、結果としてタイ料理が大好きになりました。辛いものが好きなので味は気に入りましたが、消化が追いつかず、最初の頃はお腹を壊すことが多かったです。それでもタイ料理の魅力に惹かれ、ユニークな食べ物にも挑戦しました。特に印象的だったのは、初めて食べた昆虫料理です。塩がまぶされたカリッと昆虫は意外にもビールとの相性が抜群で驚きました。帰国後はタイ料理を定期的に作るようになり、今でも楽しんでます。



食堂内で一番お気に入りのお店

たった1か月という短い期間でしたが、友達ができ、タイ料理や文化に触れ、タイという国が大好きになりました。この経験は、私にとって非常に貴重で、忘れられない思い出です。

学生便り（卒業・修了にあたって）



Carpe diem

農業生産科学科・応用植物科学コース
害虫学研究室 学部4年
長田 聖哉

「何時から面接だっけ？えへへ予定表読んでないのバレバレ（笑）」陽気なおじさんが受験生を誘導

した。なんやかんやで鹿児島大学に編入することになった。幸い害虫学研究室に転がった。転んだ先には「えへバレおじさん」がいた。

大学生活で頑張ったこと？2024年から5年間採用を待ってくれるので国家公務員試験を受けた。無課金・ほぼノー勉、面接で書類を忘れたが合格。生ぬるい。そんなことよりも、自分が好きなことに打ち込んだか。私の場合卒業論文だ。米国の愉快的仲間たちと沖縄・奄美大島で調査をする機会があった。

ソテツを加害する大害虫を捕食する天敵探しをした。私は何種か天敵を採取したが、米国人御一行は1匹も採集できなかった。米国人(71歳)は腹を立て私に「お前が採ったテントウムシを全て俺によこせ」と英語で言った。71歳VS21歳が虫を取り合い本気で喧嘩した。指導教官は私を1人で沖縄・奄美大島に2週間も行かせたため日本人は私のみ。英語で3日間議論した。結局指導教官に助けを求め、その外国人をメールで説得してもらい事なきを得た。私が採集したテントウムシの2種は片方が未記載種、もう片方は国内初記録の種だった。渡さなくて良かった。今でも彼らとは連絡を取っており仲良し

さ。英語で喧嘩して以来ほとんどのことが大したことないと感じる。今後あれを超える緊迫があれば、「成長している最中の証」だろう。

私は大学生活を毎日楽しんだ。修士課程も楽しむ。最後に*Carpe diem*.ラテン語で「今日を楽しもう」。あなたは全力で今日を楽しみましたか?毎日が*Carpe diem*でありますように。

「誰が毫碌じじいだ~」「俺言っていないっすよ。もう6時だって言ったんです。」

後ろが騒がしいので、筆を置かせてもらう。また修士が終わる時ここで振り返ることができることを楽しみにしている。



大学生活を振り返って

農業生産科学科 食料農業経済学コース
農業経済学研究室 学部4年
津曲 蓮

私の大学生活を振り返るとさまざまな思い出がよみがえってきます。私は地元が鹿児島だったこともあり、鹿児島での生活に慣れていたため、あまり不安を感じることなく大学生活をスタートすることができました。最初の頃は新型コロナウイルスの影響を受けて、授業によってオンライン授業と対面授業がバラバラであり大変だったことを覚えています。1限が対面授業で、3限がオンライン授業、4限が対面授業といったような授業の時間割になることもあり、タイムスケジュールを考えたり体調を管理したりするのに苦労しました。そんな大学生活も最初の時期だけで、少しずつ新型コロナウイルスが落ち着き、普段の生活が戻っていきました。

私が大学生活の中で一番印象に残っていることは「農村課題解決プログラム」という講義の活動として、種子島2泊3日で有機農産物の消費者ニーズ調査を行ったことです。種子島では実際にスーパーや商店、市場の店頭に立って、そこに訪れる人にインタビュー調査を実施しました。慣れない作業で最初のうちはうまく聞きたいことが聞けなかったりインタビューに答えていただけなかったりといった困難に直面しましたが、先輩方や友人と協力して知恵を出し合いながら調査することで、結果として全体で300を超える回答数を得ることができました。

高校生の頃に思い描いていた大学生活とは少し異なる部分もありましたが、振り返ってみると多くの出会いや経験を味わえた大学生活だったと思います。私の大学生活の中での一番の宝物は、大学で出会えた人たちだと思っています。大学で出会った友人との縁を大切にしながら、学んだ経験を生かして社会人として立派になれるように頑張りたいと思います。



大学生活を振り返って

大学院農林水産学研究所 食品創成科学専攻
食品分子機能学研究室 修士2年
北川 翔麻

慣れ親しんだ地元を離れ、鹿児島市での生活を始めて早5年の月日が経ちました。長いようで短かった私の大学生活を振り返ってみると、かけがえのない仲間と多く出会い、その方々とのつながりを通して、自分自身を大きく成長させることができた5

年間でした。なかでも、大学3年生から配属された「研究室」での生活と、そこで「飛び級」を選択したことは特に私を大きく成長させる転機となった出来事でした。

私の大学生生活は新型コロナウイルスの感染拡大とともにスタートしました。思うように大学へ登校することができず、交友関係が広がらないことに対する不安や焦りを抱える中、私は現在の研究室に配属されました。研究室に配属され、対面での学びや学生同士のリアルな交流が再開されたことで、自分の中でも本格的な大学での学びのスタートを切ることができたと感じています。研究室では、私が興味

を持っていた分野である「食品の持つ機能性成分」に関わる研究に携わることができ、その研究過程で専門分野に関わる知識を多く習得することができたことはもちろん、先生方や身の回りの先輩方、後輩との関わりを通じて責任感や対人スキルを養うことができました。また、大学院への進学の際には、飛び級に挑戦することも決意しました。飛び級進学をしたことで、周囲との学業の進行ペースのギャップに精神的に苦しむこともありましたが、この過程で

得た学びや成長は、私にとって大きな財産となりました。

思い返すと、私の大学生活は困難な時期も多くありましたが、その過程の中で出会った仲間や得た学び、経験は私を大きく成長させてくれました。社会人になっても、この大学生活で得た経験を活かし、今後もさらに成長できるよう努力を重ねていきたいと思っています。



大学生活を振り返って

食料生命科学科 食環境制御科学コース
植物栄養・肥科学研究室 学部4年

坂元 裕佳

大学の4年間はあっという間に終わってしまいました。私たちの代は入学式がコロナでなくなってしまい、入学した実感が湧かないまま大学の授業が始まってしまいました。半分以上がオンライン授業で学科の人との関わりはほとんどなかったです。サークルも入りましたが、クラスターが発生してしまったりしてなかなか参加できなかったのも新しい出会いが少なかったです。

私の場合、出身が鹿児島なので同じ高校の同級生が多かったので友人を作る不安はあまりなかったのは恵まれていたと思います。2年生になると対面の授業も増えましたが、同じ高校の友人と一緒にいたため新しい人と関わる機会は少なかったです。しかし、実験が始まるとグループのメンバーとはすぐ

に打ち解けられて協力し合うことができたので入学してすぐに仲良くなれたらもっと良かったと感じます。

また、大学で頑張ったことはアルバイトです。飲食店のホールで4年間、派遣で3年間掛け持ちでバイトしていました。この派遣のバイトが私の人生を変えてくれたと思っています。このアルバイトは派遣で結婚式や宴会のドリンクサービスをするのですが、参加される方々に喜んでいただける接客の方法や、コミュニケーションの取り方などを実践で学ぶことができて、この力が身についたことで就職活動の際の面接にとっても役立ちました。私は大学に入って一番不安だったことが就職活動が上手くいくかという点でした。しかし、接客のアルバイトを続けたことでその不安は徐々になくなり、結果、就職活動は大学4年生の5月には終わらせることができました。

大学生活を振り返ると、自分なりに充実した4年間で過ごすことができたのであっという間に終わったのだと思います。これまでに学んだこと、経験したことを社会人になってからも活かしていきたいです。



学生生活を振り返って

農林水産学研究科 農林資源科学コース
森林科学専攻 修士2年

大西 布綺

大学院の卒業が近づき今までの学生生活を振り返ると、私は鹿児島大学での学生生活を思う存分満喫したと思います。地元岐阜から遠く離れた場所での生活はとても刺激的で、せっかくなら鹿児島でしかできないことをしようと思いました。郷土料理の有名店でアルバイトをしたり、菜の花マラソンに参加したり、吹上浜で産卵するウミガメの保全パトロー

ルをしているサークルに入ったり、与論島に行ったりと、鹿児島での生活を満喫しました。海のない場所で育った私にとって、少し自転車を走らせれば海が見える環境は何年経っても新鮮でしたし、スーパーで知らない魚が並んでいるのを見るのもとても楽しい経験でした。

実家が林業を営んでいたのをきっかけに、大学では森林科学を専攻しました。学業においても海外研修への参加やドイツへの留学、屋久島や岩手大学の演習林での実習など、機会があればなんでも参加してきました。意欲さえあれば誰にでも学ぶ機会が与えられる環境がこの大学にはあり、好きなだけ伸び伸びと学ぶことができました。学部3年次からは森林政策学研究室に所属し、林業の現場で働く方々の

労働環境や技術者の育成について研究をしてきました。はじめは純粋な好奇心から林業という業界に興味を持ちましたが、林業界がより良い方向に進んでいく上で少しでも役に立ちたいという思いも持ちな

がら研究活動に取り組んでできました。大学院卒業後は木材の流通に関わる企業で働くことが決まっています。残りの学生生活を大いに満喫しながら、学び尽くして次のステップに進みたいと思います。



ご縁に恵まれて

農林環境科学科・地域環境システム学コース

木質資源利用学研究室 学部4年

福山 亜愛

鹿児島大学に通い始めて早4年。新型コロナウイルス感染症の拡大で入学式への参加もなく、講義の半分がオンラインや遠隔で人と接する機会が少なかった1年次。薩摩川内市から片道2時間かけて1人で通学するという大変さや、これまで当たり前できていた友達との会話も減ってしまい、始めは辛かった思い出が多く、思い描いていた大学生活ではありませんでした。しかし、1年次の後半には高校の部活の先輩と同級生に紹介され、塾で講師としてアルバイトを始め、大学では高校生物の免許を取得するため教職課程を取りはじめ、忙しい毎日を過ごすようになりました。2年次からは徐々に対面の講義が多くなり、「農業生産学実習」や「測量学実

習」などの屋外実習もあり、グループ活動を通じて友達が増え、大学へ通うことに楽しさを感じ始めました。仲良くなった4人で旅行に行ったり、飲みに行ったり、楽しい大学生活を送れる環境に嬉しさを感じました。

4年次になり、5月には母校である川内高等学校で2週間の教育実習を受けたり、就職活動をしたり、卒論の研究・実験をしたりと、更に積極的に学生生活を過ごすことができました。その中でも中学生の時の恩師とご縁があり、自分が元々興味のある「木育」の活動に参加させてもらえることになりました。教育学部の学生さんと縁を繋いでもらい、一緒になってイベントに参加して、1年という短い時間の中で多くの出会いと思い出を作ることができました。何かをつくるということが小さい頃から好きで、この活動を通じて「ものづくり」に対する想いをより強く実感する経験となりました。卒業後は企業に就職することが決まり、初めてのことが多く今は不安が強いですが、これまでのご縁を大切に新たな環境でも自分らしく過ごしていきたいと思っています。



成長できた4年

国際食料資源学特別コース

熱帯作物学研究室 学部4年

畑中 日向

はじめに、私は無事に大学を4年間過ごすことができました。この節目を迎えることができたのは、多くの経験と学びを積み重ねてきた成長の結果だと思います。振り返ると様々な思い出が蘇ります。友人との楽しい時間、先生や先輩方からの温かい指導、そして数々の挑戦と達成が、心に深く刻まれています。

まず、友人との繋がりは、学生生活に彩りを与えました。特に国際食料資源学特別コースは留学生と一緒に学ぶ機会に恵まれており、また独自のカリキュラムによる英語を使ったグループでの発表が多くありました。異なる背景や価値観を持つ人々と接することで、視野が広がり、人としての成長が促さ

れたと思います。

次に、教授からの指導は、学びの基盤を築くものでした。厳しい指導の中にも、成長を願う温かい心が感じられました。先輩方の教えは、単なる知識の伝達にとどまらず、研究や社会における指針となるものでした。感謝の気持ちを胸に、これからも教授や先輩方の教えを大切にしていきたいと思っています。

また、数々の挑戦と達成は、自信を育むものでした。特に卒論研究では、研究室の仲間の協力を借りつつ初めて水田でイネを栽培しました。多くの場面で自身の限界に挑戦し、達成感を味わいました。失敗も成功も、すべてが成長の糧となりました。これから大学院へ進学しても、これまでのように挑戦を恐れず、可能性を信じて進んでいきたいと思っています。

最後に、これまで支えてくださったすべての方々に心から感謝申し上げます。皆様のおかげで、この節目を迎えることができたと思います。これからも感謝の気持ちを忘れず、日々努力を重ねていきたいと思っています。

恩師・同窓のお慶びならびに同窓の訃報

- 【定年退職】** 田浦 悟 令和7年3月31日
(鹿児島大学先端科学研究推進センター遺伝子実験部門 教授)
- 侯 徳興 令和7年3月31日
(農学科 食品生命科学プログラム 食品分子機能学分野 教授)
- 井倉 洋二 令和7年3月31日
(農学部附属演習林 演習林長・准教授)
- 【昇任】** 寺本 行芳 令和6年12月1日
(農学科 環境共生科学プログラム 教授)
- 藤田 清貴 令和6年12月1日
(農学科 食品生命科学プログラム 難消化性糖質化学 教授)
- 赤木 功 令和6年11月1日
(農学科 植物資源科学プログラム 准教授)
- 【新任】** 遠城 道雄 令和6年4月1日 (農学キャリア教育担当 特任教授)
- 杉本 光穂 令和6年4月1日 (農学人材育成担当 スマート農業分野 特任教授)
- 亀川 藍 令和6年6月1日
(農学科 農食産業・地域マネジメントプログラム 農業経済学分野 助教)
- 【受賞】** (判明分のみ)
- 今給黎 征郎 (化 H4卒)・岡崎 桂一・横井 直人・齋藤 隆明 2024.3.23 令和5年度園芸学会年間優秀論文賞 園芸学研究 22(3): 197-206 「シンテッポウユリとテッポウユリの交配による無花粉テッポウユリ類系統の育成」
- 吉水 (白山) 竜次 (農 S62卒) 2024.12.6 令和6年度 (第80回) 「農業技術功労者表彰」農林水産省及び (公社) 農林水産・食品産業技術振興協会: 「キクの効率的電照技術の開発及びキク等の品種育成による花き産地振興」
- Choi Juyoung、坂上 潤一 (大学院連合農学研究科) 2024.5.9 2024年韓国作物学会春季大会 学生優秀発表賞
- Ju Younghwan、坂上 潤一 (大学院連合農学研究科) 2024.5.9 2024年韓国作物学会春季大会 学生優秀発表賞
- 坂井 教郎 (農食産業・地域マネジメントPG) 2024.9.7 食農資源経済学会 学会誌賞
- 岩永 菜央、藤田 清貴、北原 兼文 (大学院農林水産学研究科) 2024.9.26 日本応用糖質科学会2024年度大会 ポスター賞
- 有吉 成志朗、濱中 大介 (大学院農林水産学研究科) 2024.9.29 The 11th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering 優秀口頭発表賞
- 井手 雛子、濱中 大介 (食料生命科学科) 2024.9.29 The 11th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering 優秀ポスター発表賞
- 吉川 芙季乃、濱中 大介 (食料生命科学科) 2024.9.29 The 11th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering 優秀ポスター発表賞
- 前田 夏希、大島 一郎 (大学院農林水産学研究科) 2024.10.27 第17回日本暖地畜産学会熊本大会 優秀発表賞
- 宮田 健 (食品生命科学PG) 2024.11.9 日本ラクトフェリン学会第11回学術集会 富田賞 (応用部門)
- 松本 若菜、高山 耕二 (農業生産科学科) 2024.12.7 2024年度日本有機農業学会第25回大会ポスター賞

物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科・卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
大 林 晃	旧賛助	R.6.12.6	京都府宇治市南陵町 1-1-122	夫人 久美子
志 気 武	農昭 17	R.6.	佐賀市鍋島町蛸久 88-9	家族
中川原 陽一郎	農昭 17	R.5.3.	熊本市北区楡木 4-11-33	子息 啓
安 田 繁	農昭 18	R.5.11.	鹿児島市荒田 2-40-8	子息
吉 岡 季 雄	農昭 19	R.6.8.11	埼玉県さいたま市北区日進町 3-770-1	家族
城 戸 典 弘	農昭 24	R.5.5.10	福岡県飯塚市薬市 172	子息
菊 本 忠 士	農昭 28	R.5.10	大分県速見郡日出町川崎 51-5	子息 行徳
有 村 光 生	農昭 30	R.7.1.3	鹿児島市常盤 2-5-10	夫人 泰子
國 分 禎 二	農昭 30	R.6.11.21	長崎県対馬市豊玉町卯麦 560	夫人
藤 瀬 正 八	農昭 32	R.6.3.1	鹿児島市伊敷 2-13-47	
本 藤 周 博	農昭 35	R.5.12.20	熊本市北区楠 2-10-1	令嬢
坂 井 定 義	農昭 36	R.5.2.24	熊本市北区武蔵ヶ丘 5-7-11	令嬢
山 元 静 也	農昭 36	R.5.10.19	鹿児島県始良市東餅田 2680-7	夫人
古 莊 輝 久	農昭 38	R.6.1.24	熊本県菊池郡菊陽町光の森 2-12-9	夫人
木 下 湧 二郎	農昭 39	R.5.	福岡県八女市上陽町北川内 450	子息
安 田 輝 男	農昭 39	R.6.10 頃	鹿児島市田上 5-50-5	
宮 原 房 夫	林昭 18	R.5.	鹿児島県日置市伊集院町徳重 543	
小 幡 辰 雄	林昭 24	R.6.1.16	大分市敷戸東町 29-11	子息
濱 田 直 章	林昭 31		鹿児島市西陵 1-7-16	令嬢
川 平 景 也	林昭 32	R.6.8.24	鹿児島市吉野町 1390	夫人 弘子
森 永 鉄 美	林昭 38	R.6.1.27	長崎県諫早市白岩町 6-32	夫人 光子
井 上 克 己	林昭 42	R.5.1.24	鹿児島県日置市吹上町中原 1410-1	夫人 美代子
小 田 茂 則	林昭 42	R.6.1.	広島市安佐北区三入東 1-20-8	令嬢
松 下 三 郎	蚕糸昭 37	R.6.11.6	広島市安佐北区安佐町飯室 10921-298	夫人
横 井 禎	農化昭 24	R.3.	佐賀県唐津市山本 409-22	
富 田 裕 一郎	農化昭 29	R.6.6.30	鹿児島県始良市平松 2878-1 サザンブルー鹿児島 710 号	子息 浩嗣
山 田 靖 紀	農化昭 37		長崎県佐世保市心野町 999	弟 節和
桃 北 好 行	獣昭 23	R.6.7.24	鹿児島市鴨池 1-55-10-1407	子息 博昭
栗 原 勝 治	獣昭 37	R.6.1.12	岡山市北区国体町 3-12-833	夫人 和子
原 田 秀 逸	獣昭 53	R.6.4.10	鹿児島市魚見町 108-8	夫人 ゆう子
豊 釜 勇	農電昭 26	R.5.4.26	奈良市神殿町 182-14	
片 渕 泰	総昭 31	R.5.12.17	熊本市中央区帯山 5-20-66	夫人 恵美子
黒 木 勇	総昭 37	R.6.11.27	神奈川県川崎市幸区神明町 2-79-1 クレストレジデンス川崎神明町 608	令嬢 市村いずみ
鎌 田 巖 男	総昭 39	R.6.12.	岡山市東区瀬戸町旭ヶ丘 3-2-72	子息 浩司
田之上 増 三	畜昭 44	R.5.2.23	鹿児島市紫原 7-18-8	夫人
平 瀬 吉 磨	畜昭 44	R.5.1.12	大阪府箕面市船場西 2-12-4 OTC プライムハイツ 305	夫人
北 原 賢 次郎	農工昭 59	R.5.6.	兵庫県神戸市西区北別府 3-3-3-301	夫人
池 辺 つるよ	園昭 56	R.6.3.28	千葉県白井市桜台 2-4-14-406	夫

本 部 便 り

I. はじめに

鹿児島大学農学部あらた同窓会では、コロナ禍以前のように「令和6年度評議員会」および「令和6年度総会・懇親会」を開催いたしました。「令和6年度あらた同窓会総会」の開催にあたっては、農学部が主催した「鹿児島大学農学部ホームカミングデー」にあらた同窓会も共催しました。

一方、令和5年まで春季号（全会員向け、3月25日発行）と秋季号（学生会員向け、11月23日発行）の年2回発行してきた「あらた同窓会報」については、「秋季号」を廃止し、秋季号の内容（学生会員の寄稿の全てあるいは一部）を「春季号」に加えて発行し、学生会員を

含めた同窓会活動を全会員に周知・広報することにし、令和6年秋季号は発行せず、今年の令和7年春季号（本号）から年1回の発行にすることにいたしました。

今後も、「鹿児島大学農学部あらた同窓会」の活動がさらに発展し、卒業生および在学生間の繋がりがますます強化されることを期待しています。

II. 事業及び会計に関する報告

（会計年度：令和5年10月1日～令和6年9月30日）

1. 令和6年度総会（令和6年11月23日開催）

○開催日：令和6年11月23日(土) 15:00～17:00

○場所：鹿児島大学 農・獣医共通棟101号教室（300人収容）

令和6年度総会は、300人収容の「農・獣医共通棟101号教室」で15:00~17:00に開催しました。出席者は50名でした。なお、例年総会に先立って行っていた「講演会」は準備不足により昨年同様中止にしました。

総会においては、藤田晋輔会長（林S37卒）および寺岡行雄農学部長（顧問・賛助）の挨拶に引き続き、議長として岩井久氏（農S55卒）が選出され、岩井議長のもとで、下記の協議事項について事務局から資料にもとづき趣旨説明・提案を行い、新会長に下川悦郎氏（林S44卒）が承認されました。その他の議題についても審議の結果全て承認されました。

- (1) 令和5年度事業報告（案）について
- (2) 令和5年度の一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）および功労者表彰特別会計収支決算（案）について
- (3) 令和5年度会計監査報告について
- (4) 令和6年度事業計画（案）について
- (5) 令和6年度の一般会計収支予算（案）、名簿特別会計収支予算（案）および功労者表彰特別会計収支予算（案）について
- (6) 功労者表彰（案）について
- (7) 会則改正（案）について
- (8) 役員交代・改選（案）について
- (9) その他

議事の審議終了後に、総会で決定された「功労者表彰式」を挙行了しました。功労者表彰者の決定の経緯については本部便りに、表彰者によるご寄稿は14~16ページに掲載してあります。

総会終了後、「ヴェジマルシェ'19」（稲盛記念館）に移動し、17:30~19:30まで昨年同様に懇親会を開催しました。総会及び懇親会の様子については本号12~13ページに詳細に記載してあります。

2.令和6年度評議員会

令和6年度評議員会は令和6年10月30日（水）17:30から「あらた記念館」において出席者29名で実施いたしました。藤田晋輔会長および寺岡行雄農学部長の挨拶の後、会長が議長を務め、「評議員会」の目的（会則第14条2）である総会に付議するための下段の議題について協議をいたしました。

- (1) 令和5年度事業報告（案）、令和5年度の一般会計収支決算（案）、名簿特別会計収支決算（案）、功労者表彰特別会計収支決算（案）並びに会計監査報告について
- (2) 令和6年度事業計画（案）、令和6年度の一般会計収支予算（案）、名簿特別会計収支予算（案）、功労者表彰特別会計収支予算（案）について
- (3) 「功労者表彰者」（案）の決定について
- (4) 会則改正（案）について
- (5) 役員交代・改選（案）について
- (6) その他

協議の結果、新会長に下川悦郎氏（林S44卒）を推薦する事が承認されました。その他の議題についてもいずれも総会に付議することが決定されました。

3.常任幹事会および幹事会（学内幹事会）

令和5年度の第1回学内幹事会（令和6年1月12日開催）では、(1)あらた同窓会報令和6年春季号（令和6年3月25日発行・一般会員向け会報）の編集方針、(2)令和6年卒業および修了生名簿作成、(3)入会金未納者への対応、(4)令和5年度卒業祝賀会（令和6年3月25日）および令和6年度新入生オリエンテーション、(5)令和5または6年度年学生向け講演会、(6)令和6年度あらた同窓会総会および懇親会、等について協議いたしました。

第2回学内幹事会（令和6年8月20日開催）では、(1)学内幹事の新体制について：常任幹事制の廃止と学内幹事の実質化、(2)あらた同窓会会報の発行について：秋季号（学生向け会報）の廃止と春季号への一本化について、(3)学生幹事（仮称）について：方向性は良しとしましたが、学生幹事体制を一気に作ることは困難であろうから「学生会報編集委員」等からスタートして徐々に学生幹事を導入する下地を作っていくことが望ましいとの意見になりました。(4)学生向け講演会について：①再開する、②時期、方法、講師等については「学内幹事会」で検討する、③学生幹事（仮称）の意見を反映させるために「学内幹事会」で検討する。

(5)令和6年度卒業祝賀会および令和7年度新入生茶話会等について：今後も費用は「あらた同窓会」が負担して農学部と「あらた同窓会」の共催で行うこと、準備等は「学内幹事会」が農学部と打ち合わせながら行うことになった。(6)あらた同窓会長の交代、(7)あらた同窓会常任副会長の交代、(8)あらた同窓会事務員の採用について、も意見交換を行いました。

4.会計監査

令和5年度の会計監査は、令和6年10月10日（木）に黒木讓二、菊川明及び下川悦郎の3監事によって実施され、本会の事業及び会計事務が適切に執行されている旨の監査報告書が藤田会長に提出されました。

5.会報の発行と送付数

「鹿児島大学農学部あらた同窓会報」は、鹿児島大学の卒業式の日（通常は3月25日）に春季号報（全会員向け）を、11月23日に秋季号（主として学生会員向け）を発行してきました。

令和6年春季号は令和6年3月25日に発行し、「学生会員」と「直近5年間の会費納入者」、「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」および「賛助会員」並びに「あらた同窓会活動の活性化を図るために、可能な限り多くの会員に農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報など情報をお届けし、年会費納入向上に資する」という趣旨で卒業後5（H.31卒）、10、15、20、25、30、35、40、45、50、55（S.44卒）年を経過した5年毎の連絡先が判明している人の総計3,333人に送

付・頒布しました。送付にあたっては、例年通り「会費納入振込用紙」を同封しました。なお、会費振込用紙を同封しない「80歳以上の会費免除会員」、「終身会員」および「旧賛助会員」等には「同窓会活動の活性化に役立てるための「賛助金（寄付）」を募集しました。

令和6年秋季号については上記「3.常任幹事会および幹事会（学内幹事会）」で決定し、評議員会および総会の追認を受けたように、発行しませんでした。

6.あらた同窓会経理について

「あらた同窓会」の経理は正会員からの「年会費（2,000円）」と学生会員の「入学時納入金（入会金2,000円＋年会費2,000円×4年＝10,000円）」で成り立っています。

平成29年度から大幅な経費節減に取り組んだこと、会費を郵便局に加えてコンビニでも納入できるようにしたことや多数の会員から賛助金をいただいたことに加え、令和2年2月からのコロナ禍により様々な行事を中止したことなどにより支出が減少しました。そのため、次年度への繰越金が増加し「あらた同窓会経理」は改善しました。

しかし、正会員からの「年会費（2,000円）」の納入者数はここ数年、「鹿児島支部」などの一部の支部からの「集団納入者（納入額の20％は支部交付金として支部に還元）」に偏り、総納入人数は1,000人前後で漸減・推移しています。加えて、コロナ禍の収束に伴って社会生活が正常化され、「あらた同窓会」の活動が従前に戻ってきています。また、昨今の物価上昇などもあり経理的には厳しくなることが危惧され、同窓会活動に支障が出るのが予想されます。

「あらた同窓会」事務局としても、合理的な経理運営を進めて対処していくつもりですが、前述したように今後は正会員からの「年会費」の納入率向上に向けた活動を強化する必要があります。

7.名簿の発行

「あらた同窓会会員名簿」は令和5年6月に発行しましたので当面は発行する予定はありません。「卒業生・修了生名簿」は学内幹事の多大な協力により、令和6年3月25日に500部発行し、卒業生、修了生、教職員に配布いたしました。

8.学生向け講演会

例年実施している本会と農学部共催の「学生向け講演会」については、先に記載したように「学内幹事会」で協議した結果、令和6年度は準備不足等で実施を見送ることとしました。今後は学内幹事会で学生会員が興味を大いに持つような効果的な講師、時期等について検討して、早急に再開したいと思います。

9.地域支部との交流

「あらた同窓会」本部では、地域支部から役員派遣の要請を受けた場合、その支部総会に役員を派遣して本学および学部や同窓会の近況を報告するとともに、会員との交流を図ることにしていますが、令和2年から令和4

年まで支部総会は軒並み中止になり、地域支部との交流はできませんでした。

その後、令和5年5月8日以降、支部総会が徐々に開催されるようになってきており、令和6年は、2月3日に「令和5年度福岡県庁あらた会総会」、2月5日には「令和5年度鹿児島市役所支部総会」、5月26日には「関西あらた会設立総会」、10月29日には「令和6年度鹿児島市役所支部総会」、11月9日には「佐賀あらた会総会」、11月29日には「熊本あらた会総会」、12月1日には「広島あらた会総会」、令和7年2月1日には「令和6年度福岡県庁あらた会総会」が開催され、いずれも役員、評議員、正会員を派遣し、「あらた同窓会」および農学部の近況を紹介し、交流を深めました。その他、6月2日には「岡山あらた会」、7月11日には「育珍会」が開催されました。

それら総会と懇親会の模様については、速報を「あらた同窓会HP」（<https://aratadousokai.org/>）に随時アップしています。また、詳細については本号（「あらた同窓会報令和7年号」）の「支部・職域・クラス会・グループ便り」の項にも掲載しています。

10.会則改正について

平成6年度総会の議を経て以下の会則を改正しました。

（役員）

第6条（6）

（現在）常任幹事および幹事 若干名

（修正）学内幹事 若干名

（役員を選任）

第7条 第2項

（現在）評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部各学科長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

（修正）評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部学科長、各プログラム長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

第3項

（現在）幹事は農学部のコース等から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

（修正）学内幹事は農学部の各学科・コース及びプログラム等から推薦された者をもってこの任に当てる。

（役員の仕事）

第8条 6

（現在）常任幹事及び幹事は幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

（修正）学内幹事は幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項につ

いて協議を行う。

(幹事会)

第15条

(現在) 幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事を持って組織する。

(修正) 幹事会は、常任副会長及び学内幹事を持って組織する。

附則

(追加) 本会則は、令和6年11月23日より改訂施行する。

11. 『鹿大「進取の精神」支援基金』への取り組みについて

鹿児島大学同窓会連合会の活動と連携して取り組んで

いきます。

12. 鹿児島大学同窓会連合会

令和6年度同窓会連合会総会および懇親会は4月6日(土)に「アートホテル鹿児島」で行われました。「あらた同窓会」からも総会には7人、懇親会には16人が出席しました。

また、同窓会連合会が年2回発行している「鹿児島大学同窓会連合会報」には「あらた同窓会」としても毎号寄稿しており、印刷物は本部総会及び地域支部総会時に出席者に頒布してきました。

13. その他

特にありません。

Ⅲ. 「あらた同窓会功労者表彰」について

「あらた同窓会」においては、創立75周年(昭和59年)から5年ごとに「功労者表彰」を実施することにしてます(規則の成文化は2009年3月16日)。令和6(2024)年は5年ごとの「功労者表彰」の年に当たることから、規定に則って「選考委員会」が本部および各支部に「功労者候補者」の推薦を依頼し、本部及び支部から以下の5人の功労者該当者が推薦されました。鹿児島大学農学部あらた同窓会功労者表彰規定第四条によりあらた同窓会長より委嘱された「選考委員会」は推薦された候補者について10月9日(水)に厳正に審査した結果、全員を「功労者表彰受賞者」としました。その後、令和6年度評議員会および令和6年度総会の議を経て正式に決定されました。

鹿児島大学農学部あらた同窓会功労者表彰推薦者(選考資料)

支部等	氏名	住所	卒業学科 年次	年齢 (才)	役員歴	備考
関西	藤岡 悦治	〒661-0024 兵庫県尼崎市	農昭46	75	近畿あらた会幹事 30年	
	柳田 興平	〒675-0024 兵庫県加古川	獣昭46	75	兵庫あらた会幹事 30年	
佐賀	古賀 俊光	〒845-0001 佐賀県小城市	園昭54	68	会長8年 副会長8年 幹事長10年 監事10年 計30年	(選考の基準) 第二条の2に該当する推薦
鹿児島	下川 悦郎	〒899-2503 鹿児島県日置市	林昭44	78	顧問4年 幹事7年 監事14年 計25年	
	新納 時英	〒891-0175 鹿児島県鹿児島市	獣昭44	80	本部評議員 28年	

表彰式は「令和6年度あらた同窓会総会」において行いました。

「あらた同窓会功労者表彰者」の決定および授与式と功労者表彰5人の方々からのご寄稿を本会報14~16ページに掲載してありますのでご覧ください。

鹿児島大学農学部あらた同窓会功労者表彰規定

第一条 永年にわたり同窓会のために尽力したものを功労者として表彰し、副賞として記念品を贈呈する。

(選考の基準)

第二条 1 同窓会役員として25年以上活躍し、70歳以上に達した者。

2 特に功績が大きいと認められる者。

(表彰時期)

第三条 表彰はあらた同窓会定期総会において5年毎に行う。

(選考委員会)

第四条 1 同窓会本部に選考委員会を置く。選考委員は会長が委嘱する。

2 選考委員会は本部及び全国の各支部に功労者候補者の推薦を依頼する。

3 選考委員会は推薦された候補者につき審査し、受賞者を決定する。

(会計)

第五条 この事業に関する会計は特別会計として取り扱うものとする。

2009年3月16日制定

メモ 2009年3月

この規定は75周年事業の一環として実施された表彰規定を成文化したものである。

この規定は生存者のみを対象とし、一回のみの表彰とする。

賛助金および寄付者ご芳名 (令和6年2月16日～令和7年1月10日)

学科卒年	氏名
旧賛助	青木孝良
旧賛助	岩崎浩一
旧賛助	岩元泉
旧賛助	佐藤宗治
旧賛助	田代正一
旧賛助	枚田邦宏
AS20	内波秀一
AS22	中村秀徹
AS22	春松高誠
AS26	上ノ菌誠
AS30	福田力
AS31	福山見孝夫
AS31	村井敏夫
AS31	和田誠男
AS32	赤池玉盛
AS32	中園和年
AS32	古市吉男
AS32	松澤宜生
AS34	江崎一弘
AS34	神吉善茂
AS34	師岡光男
AS36	原田淳
AS37	青木弘光
AS37	浅田謙介
AS37	荒瀬正治
AS37	清水博之
AS38	古荘輝久
AS39	山本公明
AS39	横山和正
AS40	日野耕一郎
AS41	北川良親
AS41	坂木秀人
AS41	永富成紀
AS42	江田耕造
AS42	泊東洋和
AS42	富岡忠勝
AS47	池端裕昭
AS48	菊川明
AS49	山村耕一郎
AS52	永井定明
AS52	平井正明
AS53	三木洋二
FS22	木村義章
FS22	谷口善次郎
FS24	小幡辰雄
FS24	紀野武夫
FS26	那須袈春
FS26	安武次郎太
FS29	内邦博
FS31	岩崎健生
FS31	松枝洋一郎
FS31	吉村一郎
FS35	中山安宅

学科卒年	氏名
FS38	浮津護
FS38	勝善鋼
FS39	西田孝義
FS39	早稲田正
FS40	高倉重昭
FS41	小坂通弘
FS41	野崎政澄
FS41	溝添俊樹
FS41	毛利安喜
FS42	井上克己
FS44	下川悦郎
FS44	遠矢良太郎
FS46	濱田泰夫
FS49	森田茂
FH3	小原誠
FH4	堀智弘
SS29	橋口勉
SS32	猩々武徳
SS32	永峯隆
SS35	藤井行雄
SS36	大岩勝徳
SS39	白石優一郎
SS39	田丸猛
CS29	宇田川義夫
CS29	迫田太
CS30	内藤敦
CS34	小川泰雄
CS34	門脇申門
CS34	西迫順弘
CS34	長谷場彰
CS34	藤本滋生
CS35	木谷素直
CS35	黒阪松介
CS37	石田英雄
CS37	伊地知亨
CS37	野上雅史
CS37	松尾茂久
CS38	日下部修一
CS39	平野進
CS40	高田昭則
CS44	池邊雄二
CS45	明生誠一
CS50	西澤保孝
CS55	秋吉博之
CS58	松久保毅
CS59	宇都宮裕子
CS60	神野容子
VS30	三浦哲夫
VS31	藏原久輝
VS33	藤田満
VS36	西中川駿
VS36	松元計士
VS37	大漣武徳

学科卒年	氏名
VS37	尾下泰彦
VS40	飴本秀夫
VS40	林和陽
VS41	石黒茂
VS41	村田洋征
VS46	柳田興平
VS59	青木英晃
VH16	神谷寿
GS34	大六野貞雄
GS35	窪田孟弘
GS35	中馬越一馬
GS35	西本利治
GS35	丸山孝男
GS35	宮川良幸
GS36	高倉喜八郎
GS37	勝目行一
GS37	川井田修
GS37	黒木勇
GS37	野上眞八郎
GS38	岩沢学
GS39	安藤將
GS39	後藤祐一郎
GS40	上熊須一成
GS41	小野直達
GS41	渡辺兼五
ZS42	前田芳實
ZS46	藤原信明
ZS53	河井達志
ZS54	横山真由美
ZS58	本村信一
ES43	松田國男
ES49	中村隆
ES63	岩井智一郎
HS48	富永茂人
HS51	原耕
HS55	井上進
HS55	清田義成
HS56	空閑宏典
HS56	児島三彦
HS57	鯨坂明彦
HS59	中村秀人
資H 27	松本輝士
AMS46	津山新一郎
CMS59	小路稔徳
VMS58	高橋明男
環MH23	上野治美
香川あらた会	

あらた同窓会役員名簿

令和6年11月23日現在

顧問	寺岡 行雄 (賛助)		
会長	下川 悦郎 (林44)		
副会長	浮津 護 (林38)	佐野 岩男 (農49)	
	田中 隆義 (農59)	富永 茂人 (常任・園48)	
監事	黒木 譲二 (農47)	菊川 明 (農48)	
	地頭蘭 隆 (林56)		
学内幹事	樗木 直也 (化58)	末吉 武志 (農工平5)	
	香西 直子 (賛助)	朴 炳宰 (院生平12)	
	寺本 行芳 (環平7)	大久津 昌治 (畜60)	
	奥山 洋一郎 (賛助)	平 瑞樹 (農工62)	
	花城 勲 (院農化平6)	南 雄二 (化59)	
	鶴丸 博人 (資平13)	坂井 教郎 (賛助)	
	田浦 悟 (農59)	大塚 彰 (畜平1)	
	井尻 大地 (賛助)	一二三 達郎 (獣平22)	
	評議員	瀧川 憲洋 (農52)	大津 清司 (農53)
		南蘭 覚 (農56)	西田 和夫 (農57)
大坪 弘幸 (林45)		田實 秀信 (林58)	
大岩 勝徳 (蚕36)		有村 卓郎 (化56)	
星野 泰啓 (化58)		新納 時英 (獣44)	
佐々木 幸良 (獣58)		吉嶺 彰二 (農工52)	
東久保 研一 (園48)		酒瀬川 洋児 (園56)	
東 明弘 (園57)		上野 敬一郎 (園58)	
大久保 祐司 (生平6)		石橋 松二郎 (資平6)	
(役職指定)		各地域支部長 農学部副学部長、学科長およびプログラム長 鹿児島支部幹事	

令和5年度一般会計決算書

(令和5年10月1日～令和6年9月30日)

収入額 13,216,727円 支出額 4,285,378円 繰越金 8,931,349円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異	
会費	4,380,000	3,599,000	781,000	
年会費	2,200,000	1,766,000	434,000	延べ 883名
入会金	1,780,000	1,477,000	303,000	新正会員 9名 (27,000) 新入生 119名 (1,190,000) 卒業生 18名 (180,000) 在校生 8名 (80,000)
懇親会費	400,000	356,000	44,000	総会懇親会費 (288,000) 同窓会連合会懇親会費 (68,000)
賛助金	100,000	872,269	△772,269	拠出者 157名 香川あらた会
雑収入	100	62	38	利子
繰越金	8,745,171	8,745,171	0	
繰入金	2,000	225	1,775	基金利子
合計	13,227,271	13,216,727	10,544	

支出の部

項目	予算額	決算額	差異	
会議費	470,000	392,728	77,272	
総会費	320,000	325,057	△5,057	会場費 (9,800) 懇親会費 (300,000) その他 (15,257)
役員会費	150,000	67,671	82,329	幹事会、会計監査
事業費	2,570,000	1,607,788	962,212	
印刷費	500,000	490,540	9,460	学生向け会報 (127,600) 春季号会報 (317,900) 振込用紙印刷 (45,040)
卒業祝賀会費	800,000	200,000	600,000	
支部交付金	200,000	142,800	57,200	熊本 (11,200) 広島 (2,800) 近畿 (1,600) 関西 (3,600) 鹿児島 (123,600)
旅費	200,000	103,680	96,320	熊本 (28,840) 広島 (51,360) 福岡県庁 (23,480)
通信運搬費	800,000	620,768	179,232	会報送料 (471,816) 振込手数料等 (148,952)
講演会費	20,000	0	20,000	
功労者表彰積立金	50,000	50,000	0	令和6年度実施予定
事務局費	2,100,000	1,664,948	435,052	
役員報酬	510,000	510,000	0	常任副会長 (360,000) 幹事 (150,000)
賃金	900,000	828,200	71,800	給料
備品費	160,000	39,930	120,070	インクジェット複合機
消耗品費	60,000	8,743	51,257	事務用品等
光熱水費	150,000	101,015	48,985	電気 (94,606) 上下水道 (6,409)
通信運搬費	200,000	119,970	80,030	フレッツ光ネクストF単 利用料+BIGLOBE利用 料 (66,814) 年間サーバー費用 (13,200) ハガキ・切手 (33,070) 送料等 (6,886)
賃借料	60,000	57,090	2,910	建物使用料 (R.6.4.1～R.7.3.31分)
慶弔費	60,000	0	60,000	
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	219,914	△19,914	令和6年新入生歓迎茶話 会経費 (51,064) 寸志 (27,000) 同窓会連合会懇親会費等 (124,000) パソコン保守点検代等 (15,650) その他 (2,200)
繰出金	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
予備費	7,487,271	0	7,487,271	
合計	13,227,271	4,285,378	8,941,893	

令和5年度 同窓会名簿特別会計決算書

(令和5年10月1日～令和6年9月30日)

収入額 1,992,403円 支出額 29,700円 繰越金 1,962,703円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異
名簿代	0	0	0
雑収入	50	17	33 利子
繰越金	1,692,386	1,692,386	0
繰入金	300,000	300,000	0 一般会計より
合計	1,992,436	1,992,403	33

支出の部

項目	予算額	決算額	差異
名簿作成費	50,000	29,700	20,300
名簿購入費	0	0	0
印刷費	50,000	29,700	20,300 卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	0	5,000
予備費	1,937,436	0	1,937,436
合計	1,992,436	29,700	1,962,736

令和5年度 功労者表彰特別会計決算書

(令和5年10月1日～令和6年9月30日)

収入額 334,378円 支出額 0円 繰越金 334,378円

収入の部

項目	予算額	決算額	差異
繰越金	284,361	284,361	0
繰入金	50,000	50,000	0 令和5年度積立金
雑収入	20	17	3 利子
合計	334,381	334,378	3

支出の部

項目	予算額	決算額	差異
祝賀会費	0	0	0
記念品費	0	0	0
雑費	0	0	0
予備費	334,381	0	334,381
合計	334,381	0	334,381

あらた同窓会資産表

令和6年9月末日現在

基金特別会計		
定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円
定期預金	南日本銀行	3,000,000円
普通預金	鹿児島銀行	601,608円
合計		13,601,608円
一般会計		
普通貯金	郵便局	8,931,349円
名簿特別会計		
普通貯金	郵便局	1,962,703円
功労者表彰特別会計		
普通貯金	南日本銀行	334,378円
総計		24,830,038円

監査報告書

あらた同窓会令和5年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

令和6年10月10日

あらた同窓会

監事 下川悦郎 
 監事 黒木讓二 
 監事 菊川明 

あらた同窓会

会長 藤田晋輔 殿

令和6年度 一般会計予算書

(令和6年10月1日～令和7年9月30日)
収入額 13,213,449円 支出額 13,213,449円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
会費	4,180,000	3,599,000	581,000	
年会費	2,000,000	1,766,000	234,000	延べ 1,000名
入会金	1,780,000	1,477,000	303,000	新入生 10,000円×(175名) 新正会員 3,000円×(10名)
懇親会費	400,000	356,000	44,000	総会懇親会費(6,000円×50名) 同窓会連合会 懇親会費
賛助金	100,000	872,269	△772,269	賛助金
雑収入	100	62	38	利子等
繰越金	8,931,349	8,745,171	186,178	
繰入金	2,000	225	1,775	基金利子
合 計	13,213,449	13,216,727	△3,278	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
会議費	550,000	392,728	157,272	
総会費	400,000	325,057	74,943	総会懇親会費 会場費等
役員会費	150,000	67,671	82,329	評議員会、幹事会、会計監査
事業費	2,620,000	1,607,788	1,012,212	
印刷費	500,000	490,540	9,460	会報(春季号)
卒業・入学 祝賀会費	800,000	200,000	600,000	卒業祝賀会費・新入生 茶話会費
支部交付金	200,000	142,800	57,200	各支部へ
旅費	250,000	103,680	146,320	支部総会出席等
通信運搬費	800,000	620,768	179,232	会報送料、振込手数料等
講演会費	20,000	0	20,000	講師謝礼等
功労者表彰 積立金	50,000	50,000	0	令和11年度実施予定
事務局費	2,210,000	1,664,948	545,052	
役員報酬	520,000	510,000	10,000	常任副会長・幹事
賃金	1,000,000	828,200	171,800	給料等
備品費	160,000	39,930	120,070	
消耗品費	60,000	8,743	51,257	事務用品等
光熱水費	150,000	101,015	48,985	電気、上下水道等
通信運搬費	200,000	119,970	80,030	フレッツ光ネクストF集 +BIGLOBE利用料、切 手・ハガキ等
賃借料	60,000	57,090	2,910	会館建物使用料
慶弔費	60,000	0	60,000	祝電、弔電等
会館修繕費	0	0	0	
同窓会連合会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	300,000	219,914	80,086	
繰出金	300,000	300,000	0	名簿特別会計へ
予備費	7,133,449	0	7,133,449	
合 計	13,213,449	4,285,378	8,928,071	

令和6年度 同窓会名簿特別会計予算書

(令和6年10月1日～令和7年9月30日)
収入額 2,262,753円 支出額 2,262,753円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
名簿代	0	0	0	
雑収入	50	17	33	利子
繰越金	1,962,703	1,692,386	270,317	
繰入金	300,000	300,000	0	一般会計より
合 計	2,262,753	1,992,403	270,350	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
名簿作成費	50,000	29,700	20,300	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	50,000	29,700	20,300	卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	0	5,000	
予備費	2,207,753	0	2,207,753	
合 計	2,262,753	29,700	2,233,053	

令和6年度 功労者表彰特別会計予算書

(令和6年10月1日～令和7年9月30日)
収入額 384,398円 支出額 384,398円

収入の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
繰越金	334,378	284,361	50,017	
繰入金	50,000	50,000	0	令和6年度積立金
雑収入	20	17	3	利子
合 計	384,398	334,378	50,020	

支出の部

項目	本年度 予算額	前年度 決算額	差 異	
祝賀会費	30,000	0	30,000	
記念品費	200,000	0	200,000	記念品・表彰状作成費等
雑費	10,000	0	10,000	
予備費	144,398	0	144,398	送料等
合 計	384,398	0	384,398	

鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

(目的)

第2条 本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

- (1) 会報及び会員名簿の発行
- (2) 農学部との連携及び協力
- (3) その他必要と認められた事項

(支部)

第4条 本会は、支部を必要な地に置くことができる。

第2章 会 員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員

- 鹿児島高等農林学校卒業生
- 鹿児島農林専門学校卒業生
- 鹿児島大学農学部卒業生
- 鹿児島大学大学院農学研究科並びに大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受けた）修了者

学生会員

農学部及び大学院農林水産学研究科（農水産獣医学域農学系分野で教育・研究指導を受ける）に在籍する学生

賛助会員

- 現賛助会員（現職教員）
- 旧賛助会員（退職教員）

2 会員は、住所等に異動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

第3章 役 員 等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|------------------|-----|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 常任副会長 | 1名 |
| (3) 副会長 | 3名 |
| (4) 評議員 | 若干名 |
| (5) 監事 | 3名 |
| (6) 学内幹事 | 若干名 |
| (7) その他会長が認められた者 | |

(役員を選任)

第7条 会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。

2 評議員は、各地域支部支部長、農学部副学部長、農学部学科長、各プログラム長及び幹事会が推薦した者、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

3 学内幹事は農学部の各学科・コース及びプログラム等から推薦された者をもってこの任に当てる。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

2 常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

4 評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

5 監事は、事業実績並びに会計の執行状況の監査を行い、その結果を総会に報告する。

6 学内幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項について協議を行う。

(役員の仕事)

第9条 総会で選任された役員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

2 名誉会長は会長が委嘱する。

3 農学部長は本会の顧問とする。

4 名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会 議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第5条第1項及び第10条に掲げる者をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 役員を選任に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認められた事項

3 総会は、会計年度開始から2ヶ月内に会長が招集する。

4 総会の議長は出席者の中から選出する。

5 議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(臨時総会)

第13条 臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。

2 臨時総会の議長を選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

(評議員会)

第14条 評議員会は、会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事をもって組織する。

2 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第15条 幹事会は、常任副会長、学内幹事をもって組織する。

2 幹事会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
- (2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

第5章 会 計

(経費)

第16条 本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。

2 正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。

3 学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。

4 年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、10月1日から翌年9月30日までとする。

(監査)

第18条 監査は、会計年度ごとに行う。

第6章 事 務 局 等

第19条 本会の事務を処理するために事務局を置く。

2 事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

(雑則)

第20条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。

本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。

本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。

本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

本会則は、令和元年11月23日より改訂施行する。

本会則は、令和5年11月23日より改訂施行する。

本会則は、令和6年11月23日より改訂施行する。

覚 書

1 過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。

2 あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、5年毎に行う。

編集後記

鹿児島大学農学部あらた同窓会では、昨年度まで「あら同窓会報」を秋季号（11月23日発行で学生会員にのみ配布）と春季号（3月25日発行で学生会員を含む一般会員向けに配布）の年2回発行していましたが、令和5年度の学内幹事会で秋季号の内容を春季号に一本化して、学生会員の日頃の活動状況等を一般会員にもお伝えすることにより今後の「あらた同窓会」の活動の発展に繋がたらどうかとの意見が出され、あらた同窓会評議員会および総会で承認されました。今回の「令和7年あらた同窓会報」がその決定後の最初の号になります。その結果、本号は過去の春季号に加えてこれまで秋季号に掲載されていた学生会員の寄稿が加わり、令和元年から募集し掲載している会員からのエッセー等の寄稿も増加したことにより総ページ数は例年の春季号の1.5～2.0倍になり、印刷経費も約2倍になりそうです。

しかしながら、出来上がった「あらた同窓会報」は多様性に富むバラエティー溢れるものになったのではないかと思います。このような同窓会報を会員の皆様にお届けできるのは一般会員や学生会員の皆様のご協力によるところが大きいと感謝しています。これを機に、あらた同窓会の学年を越えた連携が深まっていくことを期待しています。どうぞ、今後ともご支援をお願いいたします。

（文責 あらた同窓会常任副会長 富永 茂人）

鹿児島大学農学部 あらた同窓会

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目21-24

TEL・FAX 099(285)8537

e-mail: aratakai@aratadousokai.org

ホームページ: <https://aratadousokai.org/>

振替口座 02010-2-876

事務局の業務日 月・水・金(10:00～16:00)

印刷所	株式会社鹿児島新生社印刷
住所	鹿児島市七ツ島1-3-21
TEL	099-261-0111
FAX	099-261-3100
E-mail	kagoshima@shinsei-p.co.jp

農学部学生の実習や課外活動に関する写真（応募写真）



高隈演習林実習
(令和6年5月26日 信島 拓志氏撮影)



暖地農場実習
(令和6年9月26日 海野 礼夢氏撮影)



棒踊りの奉納（垂水市大野集落）
(令和6年11月2日 上川 夏末氏撮影)



夏の附属農場農事部（令和6年7月4日 鈴木 康太氏撮影）



鹿児島市武岡から見た桜島と日の出（令和7年元日 海野 礼夢氏撮影）